

## 4 コース

本学音楽科のコースは次の通りである。

学科	コース	卒業に必要な単位数	年間履修単位数の上限
音楽科	ピアノ 電子オルガン 弦・管・打楽器 ウインドシンフォニー 音楽教養 声楽 合唱指導者 バレエ デジタルミュージック ポピュラー音楽 ジャズ 音楽と社会	62	48

※ 長期履修生(4年間)については、1年間に24単位を履修上限単位数とする。

※ 長期履修生(3年間)については、1年間に32単位を履修上限単位数とする。

## 5 単位で定める学修時間

短大で行われる授業科目は単位制によって学修時間が定められている。授業科目の単位数は、授業の種類や授業時間、自宅など授業外での学修などを総合的に踏まえ、定められている。単位を修得するためには教室外の学修が必要であることを十分に理解すること。

- ① 法律で全ての授業科目は「1単位＝45時間の学修」と定められている。
- ② 本学においては教育効果等を勘案し、「2時間＝授業時間1コマ(90分)」と定めている。
- ③ この「45時間の学修」を各授業種別に以下の通り定義している。

1単位 = 45時間の学修 = <講義の場合>  
15時間(7.5コマ)の授業+30時間の自習  
= <演習の場合>  
30時間(15コマ)の授業+15時間の自習  
= <実技・実習・実験の場合>  
45時間(22.5コマ)の授業  
= <実技個人レッスンの場合>  
毎週10分×30回の授業+自習  
= <副科実技グループレッスンの場合>  
毎週22.5分×30回の授業+自習

(例) 講義科目で2単位の授業の場合

2単位 = 90時間の学修 = (授業30時間+自習60時間)  
= (15コマの授業+自習60時間)の学修が必要

※なお、教育上必要があると認められる場合には、これと異なる計算をすることがある  
(該当する科目は別に定める)。

## 6 卒業に必要な単位数

本学を卒業するためには2年以上在学し、「卒業要件単位数」の合計62単位以上を履修しなければならない。(教職・司書に関する科目の単位は卒業単位に含まれない。)

このほか、教員免許状を取得しようとする者は教職課程の授業科目を履修し、所要の単位を修得しなければならない。同様に司書資格を取得しようとする者は、司書課程の授業科目を履修し、所要の単位を修得しなければならない。

## 7 履修単位数の上限

前述のとおり単位制度においては自習を含めた学修が前提となっている。授業時間のみを意識し、履修科目が過多になると、自習などの時間がなくなり、単位で定められた本来の学修時間を充たすことができなくなってしまうため、本学では単位の質を重視し、6ページのとおりに1年間に履修できる単位数の上限を48単位と定めている。

ただし、長期履修生(3年間)は32単位まで、長期履修生(4年間)は24単位までとする。

また、教職、司書、海外研修(選択科目)に関する科目及び「合奏Ⅲ」、「合奏Ⅳ」、「パフォーマンス」については、上限単位に含まれない。

(※但し、上記資格課程の科目のうち、教養科目として開講されている科目は上限単位に含む。)

◎ 例外として、意欲があり、以下2つの条件に当てはまる優秀な学生に対しては、審議の上単位の上限を超えて履修を認める場合がある。希望学生は年度当初に担任教員に相談すること。

①2年生以上 ②GPAの値が3.5以上

※1年間に4単位までで、実技科目の追加は認めない。

※長期履修生については、最終年次に適用する。

♪♪♪ ポイント ♪♪♪

「卒業要件単位数」「単位数の上限」には、教職・司書の単位は含まれないので注意しよう！！  
(一部科目を除く)

## 8 「専門教育」と「教養教育」について

本学の教育は「専門教育」と「教養教育」という2つの考え方で成り立っている。

「専門教育」は各コース単位で行うそれぞれの専門分野における学修のことを指しており、これについては、専門的学修成果等を通じ、教育の目的や内容が明示されている。詳細は後述の各コース別カリキュラムにて該当コースのページを参照すること。

一方、本学では教養を「現実の生活や人生をより豊かなものにする知恵と礼節とを含む精神」と捉え、これを身につけるための授業や教育のことを「教養教育」としている。これを通じて学生は、「自ら学ぶ意欲を喚起し、広い視野で主体的に行動する力を身につけ、高い品性とコミュニケーション能力を持って社会に貢献できる音楽人、社会人」になりうるとの考えで、専門教育と同様に重視している。

これらの考え方を反映し、下記のとおり教育課程が設定されている。

## 9 教育課程(カリキュラム)

本学の教育課程は学則において下記の3つの区分により編成されている。

### 【1】教養科目

特定の学科・コースに関わらず全学共通に開講されている。

教養科目には、各コースの専門分野の学修において学問的な基礎を担う科目や、卒業後に社会人として生きていくために必要であると考えられる科目など多様な科目がある。

これらの科目の中で、特に重要なものについてはカリキュラムにおいて必修となっており、その他の科目については原則として学生の学修意欲に応じて選択し履修することができる。

## 【2】外国語科目

本学においては英語、イタリア語、ドイツ語、フランス語の科目が開講されている。

この中から各コースのカリキュラムにおいて、履修すべき科目、単位数、履修年数等が定められている。英語についてはプレイスメントテストを実施し、クラス分けを行っており、レベルにあったクラスで授業を受けることができる。外国語の履修方法については14ページを参照すること。

## 【3】専門科目

各コースの専門分野の学修のために設置されている科目で、履修できるコースに制限がある。

必修・選択が指定されており、主科実技科目や専門分野に関する実習科目等がこれにあたる。

## 10 履修上の注意

- ① 年度毎に作成される『履修登録に関する注意事項』・『シラバス』・『時間割表』を参照し、履修科目を決定すること。（『履修要綱』は入学時のみ配付なので、卒業まで大切に保管すること。）
- ② 履修科目は、「必修科目」「選択必修科目」「選択科目」に分かれる。各コースにより異なるので19ページ以降の各コース別カリキュラムを十分に理解して履修すること。
- ③ 前期・後期開始時に指示された方法により履修を希望する全ての科目を登録すること。
- ④ 登録外科目や他学科・コース科目への出席は認めない。登録確定後の科目変更、取消しはできない。
- ⑤ 必修科目が不合格となった場合は、原則として当該当年度後期または次年度以降に再履修しなければならない。不合格の科目が選択科目の場合は他の科目を履修してもよい。
- ⑥ 履修年次を参考に履修科目を選定し、卒業まで無理のない履修計画を立てること。
- ⑦ 「…①」、「…②」などの積み上げ科目、外国語、ソルフェージュなど履修年次が決まっている科目等については特に注意し、計画的な単位修得を目指すこと。
- ⑧ 実技については、履修できない科目や楽器があるので、各コース別カリキュラムを確認すること。また、20ページに記載の実技科目の履修についても注意すること。
- ⑨ 各自の専門に偏らず、広く知識、技術を学べる科目の選択が望ましい。授業内容等についてはシラバスに記載されているので確認すること。

♪♪♪ ポイント ♪♪♪

履修計画を立てるには、まずはじめに「各コース別カリキュラム」を確認しよう！！外国語科目・ソルフェージュの履修・キャリア科目・各資格課程は、それぞれの専門ページがあるので必ず確認しよう！！

## 11 成績評価

- ① 成績評価基準は、S(100～90点)・A(89～80点)・B(79～70点)・C(69～60点)・F(59点以下)とし、C以上を合格として単位を認定する。Fは不合格とする。  
「F」、「M」(試験未受験)、「T」(試験の受験停止(出席不足))については不合格とする。
- ② S(4ポイント)・A(3ポイント)・B(2ポイント)・C(1ポイント)・F(0ポイント)として、単位当たりの成績評価の平均値を示すGPA(グレードポイントアベレージ)を算出する。
- ③ 成績評価方法については、各授業科目によって異なるのでシラバスによって明示する。

### 【GPAについて】

GPA(グレードポイントアベレージ)とは、成績を単位あたりの平均ポイントで表したものである。

S:4ポイント A:3ポイント B:2ポイント C:1ポイント F(M, Tも同様):0ポイント

※認定単位“N”や履修取り消し科目“W”はGPA計算対象外

※不合格科目もGPAの計算対象となる。

※不合格科目を次の年に再履修して合格した場合も、合格の成績とともに、不合格の成績がGPAの計算対象となる。

※なお、卒業判定時にGPAを基準のひとつとして判定を行う。

具体例として、以下の場合のGPAを計算する。

科目名	単位数	成績 (ポイント)		GP
情報機器演習(基礎)	2	S	4	8
ピアノⅡ①	2	A	3	6
ハーモニー演習①	2	B	2	4
経済学	2	C	1	2
西洋音楽史Ⅰ	4	F	0	0
合計	<u>12</u>			<u>20</u>

- ・ ポイント合計  $(2 \times 4) + (2 \times 3) + (2 \times 2) + (2 \times 1) + (4 \times 0) = \underline{20}$
- ・ 単位数合計  $2 + 2 + 2 + 2 + 4 = \underline{12}$
- ・ GPA  $20 \div 12 = \underline{1.67}$  (小数点第3位四捨五入)

<注意事項>

- 履修登録をした科目については、最後まできちんと授業に出ること。
- 資格課程科目(教職・司書)はGPA計算対象外。(一部科目を除く)
- 万が一履修中止(成績評価をGPA計算対象外とする)を行う場合は、期限を守り手続きをすること。
- 実技科目については履修中止手続きはできない。
- 履修中止手続きを行っても履修登録を取り消したことにはならない。つまり、前期履修登録時に上限単位数分履修登録している場合、前期・通年科目について履修中止とする手続きを行っても、後期履修登録時、その単位数分の後期科目の追加履修はできない。

♪♪♪ ポイント ♪♪♪

履修中止手続きを行うと、成績評価が“W”となりGPAの計算対象外となる。但し、履修登録の取り消しにはならないので、混同しないよう注意すること！！

また、手続期限を過ぎた場合は、GPA計算対象外科目とならないので注意しよう！

## 12 試験等

### 【1】実技試験(個人レッスン)

#### A 定期試験について

- ① 定期試験は、原則として年間2回行う。
- ② 各試験の時間割は掲示板にて発表する。
- ③ 受験資格について

30回のレッスン全てに出席することが、試験を受ける前提である。しかし、やむを得ずレッスンを欠席した場合は、前期試験は15回中10回までの欠席、後期試験は年間30回中10回までの欠席については受験を認める。

なお、公欠については、定期試験の受験資格に関わる欠席回数には含めない。また、理由のある欠席についても定期試験の受験資格に関わる欠席回数に含めないことがある。

所定の期日(前期4月20日、後期9月25日)までに授業料を納入しなければ受験できない。

#### B 試験運営について

##### ① 実技試験種別

1年次 : 前期実技試験、後期実技試験  
2年次 : 前期実技試験、後期実技試験  
研究生 : 前期実技試験、後期実技試験

##### ② 試験重複届

試験実施日時に2科目以上の試験が重複する場合、伴奏者が他の試験と重複する場合は、事前に「試験重複届」を提出すること。

#### C 実技試験注意事項

##### 【ピアノ実技試験】

- ① それぞれの試験の課題曲、演奏時間については、その都度発表する。
- ② 原則として暗譜で演奏し、繰り返しはしない。

##### ★主科ピアノ実技試験受験資格について

上記定期試験の受験資格の他に、「聴講必修」として定められた講演・講座に3回以上出席することが試験を受ける前提である。

(出席回数を満たさない場合、後期実技試験の受験資格を失う。)

##### 【電子オルガン実技試験】

- ① 課題曲、演奏時間については毎年度当初に発表する。

##### 【弦・管・打楽器実技試験】

##### ① 演奏時間・課題曲

各試験の演奏時間、課題曲についてはその都度発表する。

##### ② 伴奏者について

伴奏者は各自で用意すること(ただし原則として本学学生・伴奏講師・伴奏研究員に限る)。

伴奏講師、研究員への依頼方法は、試験期間の1ヶ月程度前に掲示で指示するので参照すること。

##### 【声楽実技試験】

- ① 課題曲、演奏時間は毎年度当初に発表する。
- ② 長い前奏、間奏、特に後奏はカットすることが望ましい。
- ③ 研究生の修了試験を除き、過去の試験で一度発表した曲目を受験曲にすることはできない。
- ④ 原則として、原語で歌唱のこと。

⑤ 伴奏者については下記のとおりとする。

1年次(前期・後期)・2年次(前期)	: 本学学生
2年次(卒業試験のみ)	: 本学学生・伴奏講師・伴奏研究員
研究生	: 本学学生・伴奏講師・伴奏研究員
全副科	: 本学学生

#### 【デジタルミュージック実技試験】

- ① 提出作品は年1回とし、課題は毎年度、前期中に掲示にて発表する。
- ② 提出作品は未発表のものに限る。

#### 【ジャズ・ポピュラー実技試験】

それぞれの試験の課題曲、演奏時間についてはその都度発表する。

### 【2】実技試験(副科グループレッスン)

- ① 定期試験は、原則として後期に1回行う。
- ② 各試験の時間割は、各楽器等によって異なるため、授業中によく確認すること。
- ③ 受験資格について  
30回のレッスン全てに出席することが、試験を受ける前提である。しかし、やむを得ずレッスンを欠席した場合は、年間30回中10回までの欠席については受験を認める。  
なお、公欠については、定期試験の受験資格に関わる欠席回数には含めない。また、理由のある欠席についても定期試験の受験資格に関わる欠席回数に含めないことがある。  
授業料を所定の期日(前期4月20日、後期9月25日)までに納入しなければ受験できない。

### 【3】学科目試験

#### A 定期試験について

- ① 原則として年間1回の定期試験を行う。その他試験についてはシラバスを参照のこと。
- ② 半期15回ないし通年30回の授業全てに出席することが、試験を受ける前提である。しかし、やむを得ず、授業を欠席した場合は、半期科目は15回中5回までの欠席、通年科目は30回中10回までの欠席については、受験を認める。  
なお、公欠については、定期試験の受験資格に関わる欠席回数には含めない。また、理由のある欠席についても定期試験の受験資格に関わる欠席回数に含めないことがある。
- ③ 所定の期日(前期4月20日 後期9月25日)までに授業料を納入しなければ受験できない。
- ④ 各試験の時間割は試験開始の1週間前までに発表する。ただし試験時間は通常の授業時間と異なることがあるので注意すること。

#### B 学科目試験の運営について

- ① 原則として通年科目は30回の授業とは別に年間1回、また半期科目は前期・後期の15回の授業とは別に1回の定期試験を実施する。
- ② 複数担当者のいる授業、複数クラスのある授業の場合には通常の授業時と異なる時間帯に、合同試験を行う場合がある。時間割は別途掲示にて発表する。

### 【4】レポート試験及び提出物

授業、定期試験、追試験等でレポートを提出しなければならないことがある。レポートの提出方法は次のとおりとする。

- ① 通常授業でレポートを提出する場合は担当教員の指示に従うこと。

- ② 定期試験が「レポート試験」になる場合は、定められた期日までに指定された方法で提出すること。
- ③ 作成にあたってはペン、ボールペン書きまたはパソコンとする(鉛筆書き不可)。
- ④ 特に指定のない場合は、本学指定の用紙を用い表紙をつけ、しっかりと綴じること。
- ⑤ 提出に際しては、「レポート提出証(学部:青 短大:ピンク)」に所定の事項を記入(鉛筆書き不可)して左上部に貼付すること。提出証の控えは必ず保管すること。
- ⑥ 定められた期限以降は受理しないので注意すること。

### <重要> レポート、論文等における不正行為について

引用であることを明記せず、書物やウェブ上のサイトから他人の文章を丸写ししたり、抜き書きしたりすることは、不正行為となる。

このような行為によるレポート・論文作成は、試験におけるカンニングと同様になるので注意すること。

(不正行為の種類)

- (1)捏造: 存在しないデータ、研究結果等を作成すること。
- (2)改ざん: 研究資料・機器・過程を変更する操作を行い、データ、研究活動によって得られた結果等を真正でないものに加工すること。
- (3)盗用: 他の研究者のアイデア、分析・解析方法、データ、研究結果、論文又は用語を、当該研究者の了解もしくは適切な表示なく流用すること。

## 【5】受験時の注意事項

A 受験者は次の諸点を厳守しなければならない。

- ① 受験科目は履修手続き済みのものであり、授業料等学費の滞納のないこと。
- ② 指定された試験場で受験すること。(開始5分前までに着席すること。)
- ③ 受験の際は学生証または受験許可証(仮学生証)を必ず所持すること。
- ④ 学科目試験において遅刻した者は担当教員の指示を受けること。
- ⑤ 実技試験においては、指定された日までに担当教員に受験曲目票を提出する。試験当日は自分の受験すべき時間に遅刻した者は受験できない。
- ⑥ 不正行為をしてはならない。

※以上の他試験場内の秩序維持はすべて監督者の指示に従うこと。

B 不正行為に対する処分(重要)

- ① 私語や、態度の不正な者、監督者の指示に従わない者、その他不正行為とみなされた者に対し、監督者は退場を命じ、かつその答案を無効とする。  
また、不正行為が認められた場合は、受験した科目も含め、当該期の全科目を無効とする。
- ② 不正行為として処分された者は、留年となることがあるので十分注意すること。  
※ 不正行為は「懲罰」の対象であり記録に残る。

♪♪♪ ポイント ♪♪♪

仮学生証発行は年に1回のみ！ 学生証は必ず所持しよう！！

実技試験・学科目試験等の日程や課題は掲示にて発表。常に掲示を確認すること！！

掲示物の見間違いには注意！ 注意深く確認しよう！

その他の連絡事項等も掲示板を利用しての連絡が多いので、掲示板のチェックは大切！！

## 13 追試験

### 【追試験】

定期試験を欠席し、追試験を希望する学生に対して行われる試験である。学生は本学が認めた場合のみ受験できる。

追試験の成績評価は得点より1割減となる。公欠制度による追試験受験は本試験扱いとして成績評価する。(公欠制度については学生便覧に記載)

また、「理由のある欠席」として認められた場合は、内容により、追試験扱い又は本試験扱いとして成績評価する。(「理由のある欠席」についても学生便覧に記載)

### 【「追試験願」の提出について】

追試験の希望者は「追試験願」用紙に欠席の理由が証明できる次の書類を添付して教務課に提出すること。

- ① 急な病気・ケガによる欠席の場合は、欠席した日に治療、診断したことが分かる医師の診断書。
- ② 交通機関の事故、遅延等による欠席の場合は、交通機関が発行する証明書。
- ③ 本学が公欠として定めた忌引による欠席は、保証人等が署名・捺印した忌引願(書式は教務課)。
- ④ 上記以外の本学が公欠制度として定めた欠席については、それを証明することができる書類。
- ⑤ 「理由のある欠席」として本学が認めた欠席については、それを証明することができる書類。
- ⑥ 「追試験願」は試験日を含め4日以内(土日祝日含む)に提出すること。但し土日祝日は提出を受け付けない。したがって、追試験願の提出期間の4日目(最終日)が土日祝日に当たる場合は、その日以降教務課窓口が開く最初の日までに提出すること。

### 【注意事項】

- ① 全ての手続きにおいて添付書類の無い「追試験願」は一切受け付けない。
- ② 試験当日、電話による連絡は欠席理由を認めるものにはならない。期日までに手続きをすること。
- ③ 就職試験や病気・ケガによる通院、治療、入院など試験に欠席することが予想される場合は必ず事前に手続きをすること。
- ④ 出席日数不足等による受験停止者の追試験願は受け付けない。

### 【追試験実施について】

- ① 学生から提出された「追試験願」を本学が審査する。受験が認められた学生については掲示で案内。
- ② 受験が認められた学生は、事務局内設置の券売機にて追試験受験証紙(学科目1,000円、実技3,000円)を購入し、教務課へ提出。公欠制度による追試験は証紙が不要なので、所定用紙のみを提出すること。
- ③ 本学が定めた日程において追試験を受験すること。
- ④ 追試験欠席による追試験は行わない。本人の自己都合で、定められた追試験日に受験できない場合も理由の如何を問わず同様とする。

♪♪♪ ポイント ♪♪♪

追試験を希望する場合には必ず期限までに手続きをすること！！

手続に必要な書類を提出できるようにきちんと準備しておこう！

追試験を受験するにあたり、受験料が発生することを覚えておこう！！



## 14 ソルフェージュの履修について

### 【ソルフェージュの卒業要件】

下表を見て、履修すべきソルフェージュ・卒業に必要な履修年数及び単位数を確認。

		短大										
		音楽科										
		ピアノ	電子オルガン	弦・管・打楽器	ウインドシンフォニー	音楽教養	声楽	合唱指導者	デジタルミュージック	ポピュラー音楽	ジャズ	バレエ
卒業要件	ソルフェの種類	注1										
	単位	4				2			0 (選択自由)			
	年数 注2	2				1			0 (選択自由)			

注1 オリエンテーション時のクラス分け試験(ソルフェージュ斉試験)で「基本ソルフェージュ」修了レベルと判定された者は、科目別ソルフェージュから始めることができる。その場合は、「聴音・視唱ソルフェージュ」「鍵盤ソルフェージュ」「総合ソルフェージュ」の中から任意の科目を選択する。

いくつかを組み合わせ、卒業要件の単位数・年数を満たすこと。

注2 1年間履修した結果不合格となった場合は、この「年数」には数えられないので、十分注意すること。

<その他>

- 履修するレベルが決まったら、翌年度はそのレベルを下げて履修することは原則としてできない。

## 15 外国語の履修について

### 【1】外国語の卒業要件

下表を見て、履修すべき外国語・卒業に必要な履修年数及び単位数を確認。

		短大										
		音楽科										
		ピアノ	電子オルガン	弦・管・打楽器	ウインドシンフォニー	声楽	合唱指導者	音楽教養	バレエ	デジタルミュージック	ポピュラー音楽	ジャズ
卒業要件	語学の種類	注1			イタリア語	注1			英語	0 (選択自由)		
	単位	4			4	4						
	年数 注2	1			1	1						

注1 英語・イタリア語・ドイツ語・フランス語の中から1ヶ国語を選択。

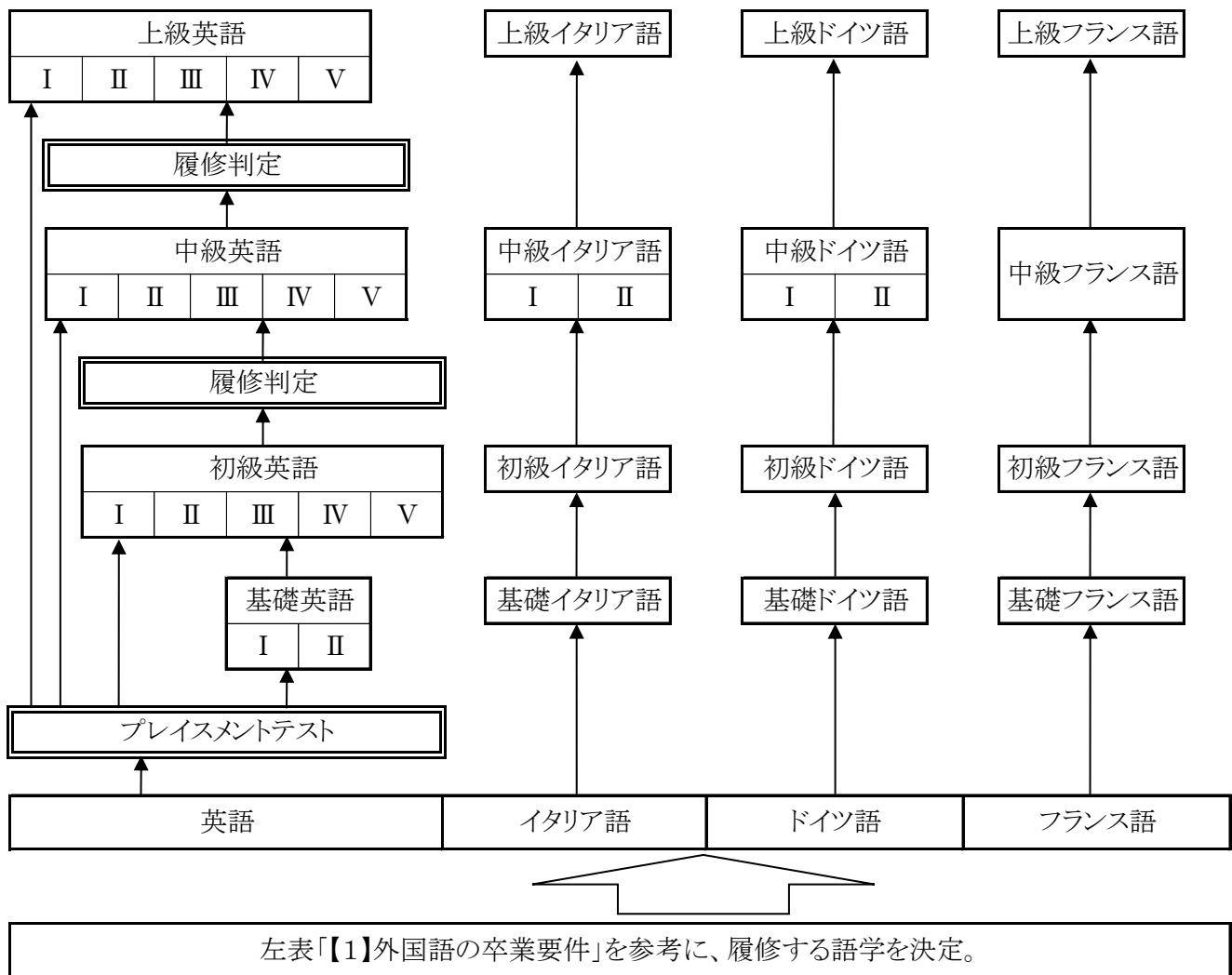
卒業要件に関わる単位・年数は、選択した語学1ヶ国語で数えるので継続して履修すること。

注2 1年間履修した結果不合格となった場合は、この「年数」には数えられないので、十分注意すること。

#### <その他>

- ・ 外国語は1年間に2ヶ国語(8単位)まで履修可。同一外国語ならば4単位まで。
- ・ 履修するレベルについて、それ以前に履修したレベルを下げて履修することはできない。
- ・ 「上級英語」を履修するには、「中級英語」を2科目以上単位修得した後、上級レベルの履修判定を受けなければならない。(プレースメントテストで「上級英語」履修を指示された場合を除く。)
- ・ 異なるレベルを同一年次には履修できない。
- ・ 全ての外国語科目はコミュニケーションを含む。
- ・ 1年次から履修を開始し、2年次で卒業に必要な単位数を修得すること。
- ・ 「基礎英語」は必ずⅠとⅡを履修しなければならない。
- ・ プレースメントテストの結果により「初級英語」から履修を開始した場合、2年目に継続して英語の履修を希望する場合は、未履修の「初級英語」科目を選択すること。
- ・ イタリア語、ドイツ語、フランス語の中級および上級科目については、指定された者のみ履修可。

## 【2】外国語の履修プロセス



## 【3】英語単位認定制度について

本学では、英語の運用能力が上級英語レベル以上の学生について、下記条件を満たしていると認められた場合に、定められた科目の単位を認定する制度を設けている。(大学設置基準第29条第1項に基づく) 認定希望者は下記条件を確認した上で、教務課窓口まで申し出ること。

### ○認定条件

入学後1回に限り、下記いずれかひとつの検定試験の正式な受験結果(合格証明書あるいは得点)を提出できること。(※各結果の証明書類等の有効期限は申請時よりさかのぼって2年以内)

- ・ 英語検定1級
- ・ TOEIC=900以上
- ・ TOEFL(iBT)=104以上
- ・ TOEFL(CBT)=258以上
- ・ TOEFL(PBT)=600以上
- ・ IELTS=7.0以上
- ・ Cambridge=CAE以上

### ○単位認定科目

「上級英語Ⅱ」(2単位)

16 音楽科全コース共通 日本語科目(教養科目・選択科目)

◎ 日本語科目については、教養科目の区分とし、選択科目とする。(卒業要件に含む)

		ねん 1年	
		かめくめい 科目名	たんい 単位
かく コース せんたく かめく 科目	きょう きょう かめく 科目	きそ にほんご 基礎日本語 I	4※
		きそ にほんご 基礎日本語 II	1※
		しよきゆうにほんご 初級日本語 I	4※
		しよきゆうにほんご 初級日本語 II	1※
		ちゆうきゆうにほんご 中級日本語 I	3※
		ちゆうきゆうにほんご 中級日本語 II	1※
		ちゆうきゆうにほんご 中級日本語 III	1※
		ちゆうきゆうにほんご 中級日本語 IV	3※
		ちゆうきゆうにほんご 中級日本語 V	1※
		ちゆうきゆうにほんご 中級日本語 VI	1※
		ちゆうきゆうにほんごえんしゅう 中級日本語演習	1※
		じようきゆうにほんご 上級日本語 I	1※
		じようきゆうにほんご 上級日本語 II	1※

【左表中の注意事項】

- 単位に※印が付いている科目は半期(前期または後期)のみで履修が終わる科目
- 単位数は1週間の授業回数を表す。1単位は週1回、4単位は週4回授業がある。
- 配当年次を過ぎた科目は、全て履修ができるようになる。(2年次以降も履修可)
- 他の必修科目と重複する場合は、日本語科目を優先することが望ましい。
- 日本語科目の履修は、1年次だけでなく、2年次以降も継続的に履修することが望ましい

◎ 日本語科目の履修については、次の要件を満たさなくてはならない。

＜履修できる学生＞

留学生・母語が日本語ではない学生・帰国子女等、日常で日本語を使用する機会が少なかった学生。

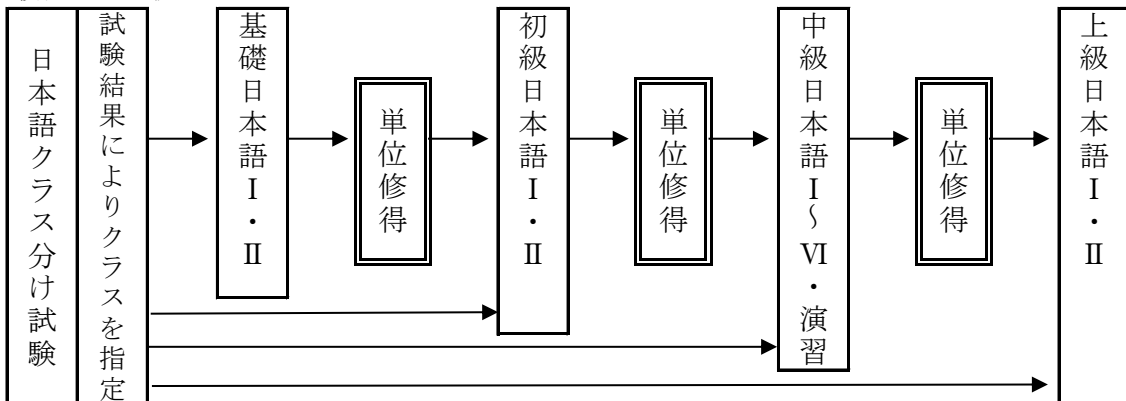
履修にあたっては学生が自分で判断し、プレイスメントテストを受験すること。

＜履修方法＞

日本語クラス分け試験を受験し、指定された科目を履修すること。

日本語クラス分け試験の結果、履修不可の場合もある。

◎ 履修までの流れ



## 17 「キャリア科目」について

本学は、建学の精神である「礼・節・技の人間教育」に則り、音楽大学の特性を活かし、幅広い視点で音楽を捉える力を育み、生涯にわたって多方面で活躍できる「キャリアマネジメント力」を持った「音楽人」を育成することを目指して、カリキュラムの中に「キャリア科目」を設置しています。

「キャリア科目」では、学生の皆さんそれぞれの専門の学びに沿いつつ、人間力と学びの基礎力をつけ、音楽や芸術に関する理解や実践力を高めながら、音楽人として主体的に職業意識を身につけることができます。

自分の専門分野の科目とキャリア科目を上手く組み合わせ、自己のキャリア形成に役立ててください。(必修科目と選択科目があるので、コースのカリキュラムをよく確認してください。)

### 【キャリア科目一覧】 ◎(必修) ○(選択)

科目名	概要 (詳細はシラバスを参照ください)	1年	2年
ミュージックビジネスと社会	レコード会社、プロモーター、アーティストマネジメントなど、音楽関連産業の機能と役割、音楽ビジネスのあり方を考察します。	○	
ライブビジネスと社会	現場で業務に携わるプロモーターやアーティストによる講義。自らの学びを将来実社会でどのように生かしてゆくかを考えます。	○	
芸術特別研究ⅠⅡ	優れた演奏や作品に触れることにより、感性を磨き、視野を広げます。感想を記入し、レポートを作成します。	◎	◎
音楽活動研究①	社会における音楽の役割、対象や目的に沿った演奏会の創り方について専門的に学び、実際の演奏活動の見学を通じて、音楽のもつ力を体感します。	○	
音楽活動研究②	専門的な技術を学ぶと共に、実際の演奏活動の映像を検証し、ディスカッションをします。自分にとって音楽とは何かについて考察を深めます。		○
キャリアデザイン	多様なゲストスピーカーのお話から音楽業界の現状やニーズについて理解し、複眼的な視点でキャリアについて考えます。		○

## 18 器楽Ⅱ・インストゥルメンツⅡ・教養器楽Ⅰ～Ⅳ・弦管打楽器Ⅰ～Ⅳの履修について

器楽ⅡやインストゥルメンツⅡ等で選択できる楽器は、コース毎に異なる。履修を希望する場合は、下表を参照して後期に行われるレッスン希望調査の登録を行うこと。

コース名	科目名	選択可能楽器	楽器変更	備考	
弦管打楽器	器楽Ⅱ	ヴィオラ	-	ヴァイオリン専攻者のみ履修可	
ウインドシンフォニー					
声楽	器楽Ⅱ	ヴァイオリン ヴィオラ チェロ コントラバス ハーブ クラシックギター フルート オーボエ クラリネット ファゴット サクソフーン ホルン トランペット トロンボーン ユーフォニアム チューバ 打楽器 以上の中から選択	×		
合唱指導者			×		
音楽教養			1回のみ可能	主専攻と同一楽器は履修不可	
デジタルミュージック			×		
ジャズ			×		
ポピュラー音楽			×		
音楽と社会			1回のみ可能	主専攻と同楽器は履修不可	
音楽と社会			器楽(主専攻)	×	
電子オルガン			インストゥルメンツⅡ	ドラムス	-
ジャズ	インストゥルメンツⅡ	ギター ベース ウッドベース ドラムス パーカッション サクソフーン トランペット トロンボーン 以上の中から選択	×	主専攻と同一楽器は履修不可	
ポピュラー音楽					
音楽教養	インストゥルメンツⅡ	ギター ベース ドラムス サクソフーン トランペット トロンボーン 以上の中から選択	×		
音楽と社会					

## 19 各コースカリキュラム

◎必修科目、選択必修科目

◎選択科目

◎(教職課程)教科に関する科目

コース	ピアノコース
獲得できる専門的能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソロおよびアンサンブルの奏者として、ピアノによる演奏表現ができる。</li> <li>・幅広いジャンルにおける音楽の演奏スタイルに触れることにより、自らのピアノ演奏能力を向上させることができる。</li> <li>・作曲家や作品について幅広く理解するとともに、豊かな音楽的教養が身に付く。</li> <li>・ピアノという楽器の歴史と奏法についての理解を深め、さまざまな時代におけるピアノ音楽の特質を理解することができる。</li> <li>・指導者として必要な演奏技術力や指導力が身に付く。</li> <li>・出演するコンサートの運営に携わることによって、演奏会の準備・企画等の能力が養成される。</li> </ul>

### 【卒業要件単位数】

必修		選択必修						選択	
		専門科目 (ソルフェージュ)		外国語科目		教養科目			
1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年
22単位	10単位	最低 2単位	最低 2単位	最低 4単位		最低 2単位 ※必修の教養科目 以外から選択		20単位以上	
合計 32単位 (A)		最低 10単位 (B)						62単位-(A)-(B)	

◎ 「教養科目」区分の科目については、卒業までに最低6単位修得することを卒業要件とする。

(必修の教養科目についてもこの6単位の中に含む。「芸術特別研究Ⅰ・Ⅱ」「基礎ゼミ」)

◎ 選択必修科目のうち、最低修得単位数を超えた分については選択科目の単位となる。

◎ 本学音楽学部への編入学要件については、78ページ以降を参照すること。

◎ 資格課程の履修については、85ページ以降を参照すること。

### 【基本的な注意事項(右表参照)】

- ・ ○数字が付記してある科目は、同じ科目名称同士①②の順番で履修する。  
例)「ピアノⅠ①」→「ピアノⅠ②」  
※①②を、同時に履修することは認めない。
- ・ 2年生は2年生の欄に記載されている科目の他に、1年生の科目も履修ができる。
- ・ 単位数に※印が付いている科目は、半期(前期または後期)のみで履修が終わる科目。
- ・ 「副科実技」科目は、2年間で4科目(8単位)まで履修可。
- ・ 「注意」欄に☆印が付いている科目は、社会福祉主事任用資格に関わる科目。(107ページ参照)

### 【右表中の注意事項】

A 「ハーモニー演習①」は楽典参考試験の結果、「音楽基礎演習」の履修を指定された者は1年次に履修することはできない。この場合2年次に履修すること。

B 各資格課程登録者で、これらの科目が必修の者のみ履修可。また、履修する場合、教養科目としても同時に履修することになり、卒業要件単位にも含む。

(※卒業要件単位に含む＝年間履修上限単位数に含む)

- ・ 「教育心理学」=教職課程必修
- ・ 「生涯学習概論Ⅰ」「図書館概論」=司書課程必修





音楽科 ピアノコース（選択科目）

平成30(2018)年度入学

		1年			2年		
		科目名	単位	注意	科目名	単位	注意
選択	専門科目	作曲Ⅱ①	2		作曲Ⅱ②	2	
		電子オルガンⅡ①	2		電子オルガンⅡ②	2	
		オルガンⅡ①	2		オルガンⅡ②	2	
		ポピュラー・ジャズピアノⅡ①	2		ポピュラー・ジャズピアノⅡ②	2	
		アートマネジメント概論Ⅰ	2※		声楽Ⅱ②	2	
		アートマネジメント概論Ⅱ	2※		オペラの歴史と作品	4	
		コンピュータ音楽概論	4		ステージマネージャー演習	1※	
		ジャズの歴史と作品	2※		ハーモニー演習②	2	
		パフォーマンス①	1	A	パフォーマンス②	1	A
		バレエ音楽演習	2		ミュージカルの歴史と作品	2※	
		ポピュラー音楽概論	4		メディア創作演習②	2	
		ミュージックビジネスと社会	2※		医学一般	2※	☆
		メディア創作演習①	2		音楽教育メソッド実践Ⅱ	2	
		ライブビジネスと社会	2※		音楽心理学	2※	
		演劇の歴史と作品	2※		音楽療法各論Ⅰ	2※	
		音楽基礎演習	2	A	音楽療法各論Ⅱ	2※	
		音楽教育メソッド実践Ⅰ	2		介護概論	2※	☆
		音楽療法概説	2※		楽式論Ⅰ	2※	
		海外研修Ⅱ	3		楽式論Ⅱ	2※	
		海外研修Ⅳ	3		合唱②	2	
		海外研修Ⅴ	3		合奏Ⅱ	2	
		楽器研究	2※		合奏Ⅳ②	2	A
		合奏Ⅳ①	2	A	看護学演習	2※	
		鍵盤演奏表現Ⅱ	2		器楽の歴史と作品	4	
		鍵盤音楽の歴史と作品	4		経営学Ⅰ	2※	
		作曲家・作品研究	4		芸術関係法規	2※	
		指揮法Ⅰ	2		芸術文化と社会Ⅱ	2※	
		指導者基礎Ⅰ	2		鍵盤演奏表現Ⅲ	2	
		障がい児教育概論	2※		鍵盤演奏表現Ⅳ	2	
		西洋音楽史Ⅱ	2※		作曲・編曲法	2	
		日本音楽概論Ⅰ	2※		指導者基礎Ⅱ	2	
		日本音楽概論Ⅱ	2※		児童心理	2※	
		日本古典芸能Ⅰ	1※		社会福祉概論	2※	☆
		日本古典芸能Ⅱ	1※	B	日本古典芸能Ⅲ	1※	
日本伝統音楽演習Ⅰ	1※	C	伴奏実習	1	DE		
日本伝統音楽演習Ⅱ	1※	C	伴奏法②	2			
発達心理学	2※		舞踊の歴史と作品	4			
伴奏実習基礎	2	D	民族音楽概論Ⅰ	2※			
伴奏法①	2		民族音楽概論Ⅱ	2※			
簿記・会計入門	4						

【上表中の注意事項】

- A 指定された者のみ履修可。シラバスを参照のこと。
- B 「日本古典芸能Ⅰ」の単位を修得した者のみ履修可
- C IとⅡの両方を同学期同時限に履修すること。（\*履修人数制限あり）
- D 2年次に「伴奏実習」（バレエ伴奏）を選択する学生は、「伴奏実習基礎」を履修することが望ましい。
- E 「伴奏法①」の単位を修得した者のみ履修可。

## 音楽科 ピアノコース（教職課程関係科目）

【教職課程「教科に関する科目」「教科または教職に関する科目」「66条の6に定められた科目」】

教職課程履修者はコースに開講されている科目を以下の通り修得する必要がある。  
教職課程科目履修の詳細は、87ページ以降に記載しているのものでそちらも必ず参照すること。

教科に関する科目	教職課程区分	免許状取得に必要な科目		
		科目名	単位	備考
ソルフェージュ	必修	聴音・視唱ソルフェージュ①	2	
		基本ソルフェージュ①	2	ソルフェージュ斉試験で「基本ソルフェージュ①」を指定された学生のみ必修。その場合は「聴音・視唱ソルフェージュ①」の指定クラスも同時に修得する必要がある。
声乐（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）		声乐Ⅱ①	2	
		合唱①	2	
		日本伝統音楽演習Ⅰ	1	
器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		ピアノⅠ①	6	
		合奏Ⅱ	2	
		伴奏法①	2	
		日本伝統音楽演習Ⅱ	1	
指揮法			指揮法Ⅰ	2
音楽理論、作曲法（編曲法を含む。）及び音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）	必修	西洋音楽史Ⅰ	4	
		日本音楽概論Ⅰ	2	
		民族音楽概論Ⅰ	2	
		ハーモニー演習①	2	
	選択必修	作曲・編曲法	2	2科目のうち1科目選択必修
作曲Ⅱ①		2		
教科または教職に関する科目	必修	西洋音楽史Ⅱ	2	
	選択必修	★鍵盤ソルフェージュ①	2	★修得することが望ましい  左記9科目のうち4単位以上選択必修
		鍵盤ソルフェージュ②	2	
		聴音・視唱ソルフェージュ②	2	
		声乐Ⅱ②	2	
		ピアノⅠ②	6	
		ハーモニー演習②	2	
		音楽基礎演習	2	
		日本音楽概論Ⅱ	2	
		民族音楽概論Ⅱ	2	
教育職員免許法施行規則第66条の6に定められた科目	必修	日本国憲法	2	
		体育理論	2	
		体育実技	1	
	選択必修	情報機器演習（基礎）	2	3科目のうち1科目選択必修
		情報機器演習（応用Ⅰ）	2	
		情報機器演習（応用Ⅱ）	2	
		外国語	2	

コース	<b>電子オルガンコース</b>
<b>獲得できる 専門的能力</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソロおよびアンサンブルの奏者として、電子オルガンによる演奏表現ができる。</li> <li>・さまざまなジャンルの音楽に触れることで、自らの音楽的視野が広がる。</li> <li>・基礎音楽力を向上させることで、自らが編曲したものが演奏でき、独自の音楽表現と向き合うことができる。</li> <li>・本学の電子オルガンアンサンブルの特徴であるスコアリーダー演奏法が身に付く。</li> <li>・即興演奏などの自由な演奏表現が身に付く。</li> <li>・指導者として必要な演奏技術力や指導力が身に付く。</li> </ul>

**【卒業要件単位数】**

必修		選択必修						選択	
		専門科目 (ソルフェージュ)		外国語科目		教養科目			
1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年
25単位	15単位	最低 2単位	最低 2単位	最低 4単位		最低 2単位 ※必修の教養科目 以外から選択		12単位以上	
合計 40単位 (A)		最低 10単位 (B)						62単位-(A)-(B)	

◎ 「教養科目」区分の科目については、卒業までに最低6単位修得することを卒業要件とする。

(必修の教養科目についてもこの6単位の中に含む。「芸術特別研究Ⅰ・Ⅱ」「基礎ゼミ」)

◎ 選択必修科目のうち、最低修得単位数を超えた分については選択科目の単位となる。

◎ 本学音楽学部への編入学要件については、78ページ以降を参照すること。

◎ 資格課程の履修については、85ページ以降を参照すること。

**【基本的な注意事項(右表参照)】**

- ・ ○数字が付記してある科目は、同じ科目名称同士①②の順番で履修する。  
例)「電子オルガンⅠ①」→「電子オルガンⅠ②」  
※①②を、同時に履修することは認めない。
- ・ 2年生は2年生の欄に記載されている科目の他に、1年生の科目も履修ができる。
- ・ 単位数に※印が付いている科目は、半期(前期または後期)のみで履修が終わる科目。
- ・ 「副科実技」科目は、2年間で4科目(8単位)まで履修可。
- ・ 「注意」欄に☆印が付いている科目は、社会福祉主事任用資格に関わる科目。(107ページ参照)

**【右表中の注意事項】**

A 「ハーモニー演習①」は楽典参考試験の結果、「音楽基礎演習」の履修を指定された者は1年次に履修することはできない。この場合2年次に履修すること。

B 各資格課程登録者で、これらの科目が必修の者のみ履修可。また、履修する場合、教養科目としても同時に履修することになり、卒業要件単位にも含む。

(※卒業要件単位に含む＝年間履修上限単位数に含む)

- ・ 「教育心理学」=教職課程必修
- ・ 「生涯学習概論Ⅰ」「図書館概論」=司書課程必修

音楽科 電子オルガンコース (必修科目、選択必修科目)

平成30(2018)年度入学

		1年			2年						
		科目名	単位	注意	科目名	単位	注意				
必修	専門科目	電子オルガンⅠ①	6	A	電子オルガンⅠ②	6					
		電子オルガンアンサンブル①	2		電子オルガンアンサンブル②	2					
		電子オルガン演習①	2		電子オルガン演習②	2					
		ピアノⅡ①	2		ピアノⅡ②	2					
		声楽Ⅱ①	2		電子楽器研究	2※					
		ハーモニー演習①	2								
		合唱①	2								
		西洋音楽史Ⅰ	4								
		芸術特別研究Ⅰ	1			芸術特別研究Ⅱ		1			
		基礎ゼミ	2								
必修	専門科目	基本ソルフェージュ①	2		基本ソルフェージュ②	2					
		聴音・視唱ソルフェージュ①	2		聴音・視唱ソルフェージュ②	2					
		鍵盤ソルフェージュ①	2		鍵盤ソルフェージュ②	2					
		総合ソルフェージュ①	2		総合ソルフェージュ②	2					
		ソルフェージュ科目についての詳細は14ページに掲載。必ず参照の上、履修すること。									
		必修	外国語科目		基礎英語Ⅰ・Ⅱ	2			初級イタリア語	4	
					初級英語Ⅰ～Ⅴ	2			中級イタリア語Ⅰ	2	
					中級英語Ⅰ～Ⅴ	2			中級イタリア語Ⅱ	2	
					上級英語Ⅰ～Ⅴ	2			上級イタリア語	2	
					基礎イタリア語	4			初級ドイツ語	4	
基礎ドイツ語	4			中級ドイツ語Ⅰ	2						
基礎フランス語	4			中級ドイツ語Ⅱ	2						
				上級ドイツ語	2						
				初級フランス語	4						
				中級フランス語	2						
		上級フランス語	2								
外国語科目についての詳細は16ページに掲載。必ず参照の上、履修すること。											
選択必修	教養科目	演奏とからだⅠ	2※	☆	キャリアデザイン	1※					
		演奏とからだⅡ	2※		音楽活動研究②	1					
		哲学	2※		選択必修の教養科目の中から、最低2単位修得すること。						
		文学	2※								
		心理学	2※								
		心の健康	2※								
		日本文化史Ⅰ	2※								
		日本文化史Ⅱ	2※								
		西洋文化史Ⅰ	2※								
		西洋文化史Ⅱ	2※								
		美術史Ⅰ	2※								
		美術史Ⅱ	2※								
		日本国憲法	2※								
		生活と経済	2※								
		経済学	2※		☆						
		情報機器演習(基礎)	2※								
		情報機器演習(応用)Ⅰ	2※								
		情報機器演習(応用)Ⅱ	2※								
		体育理論	2※								
		体育実技	1※								
		音響学	2※								
		ボランティア論	2※								
		音楽活動研究①	1								
		教育心理学	2※		B	日本語科目については、18ページを見ること。					
		生涯学習概論Ⅰ	2※		B						
		図書館概論	2※		B						
		博物館概論	2※		B						

◎選択科目については次ページに掲載

音楽科 電子オルガンコース (選択科目)

平成30(2018)年度入学

		1年			2年		
		科目名	単位	注意	科目名	単位	注意
選択 専 門 科 目		ポピュラー・ジャズピアノⅡ①	2		ポピュラー・ジャズピアノⅡ②	2	
		インストゥルメンツⅡ①	2	A	インストゥルメンツⅡ②	2	A
		作曲Ⅱ①	2		作曲Ⅱ②	2	
		オルガンⅡ①	2		オルガンⅡ②	2	
		アートマネジメント概論Ⅰ	2※		声楽Ⅱ②	2	
		アートマネジメント概論Ⅱ	2※		オペラの歴史と作品	4	
		ジャズの歴史と作品	2※		ステージマネージャー演習	1※	
		パフォーマンス①	1	B	ハーモニー演習②	2	
		ポピュラー音楽概論	4		パフォーマンス②	1	B
		ポピュラー作曲・編曲法①	4		ポピュラー作曲・編曲法②	4	
		ミュージックビジネスと社会	2※		ミュージカルの歴史と作品	2※	
		ライブビジネスと社会	2※		医学一般	2※	☆
		演劇の歴史と作品	2※		音楽教育メソッド実践Ⅱ	2	
		音楽基礎演習	2	B	音楽心理学	2※	
		音楽教育メソッド実践Ⅰ	2		音楽療法各論Ⅰ	2※	
		音楽療法概説	2※		音楽療法各論Ⅱ	2※	
		海外研修Ⅱ	3		介護概論	2※	☆
		海外研修Ⅳ	3		楽式論Ⅰ	2※	
		海外研修Ⅴ	3		楽式論Ⅱ	2※	
		楽器研究	2※		合唱②	2	
		合奏Ⅳ①	2	B	合奏Ⅱ	2	
		鍵盤演奏表現Ⅰ	2		合奏Ⅳ②	2	B
		鍵盤演奏表現Ⅱ	2		看護学演習	2※	
		鍵盤音楽の歴史と作品	4		器楽の歴史と作品	4	
		作曲家・作品研究	4		経営学Ⅰ	2※	
		指揮法Ⅰ	2		芸術関係法規	2※	
		障がい児教育概論	2※		芸術文化と社会Ⅱ	2※	
		西洋音楽史Ⅱ	2※		鍵盤演奏表現Ⅲ	2	
		日本音楽概論Ⅰ	2※		鍵盤演奏表現Ⅳ	2	
		日本音楽概論Ⅱ	2※		作曲・編曲法	2	
		日本古典芸能Ⅰ	1※		社会福祉概論	2※	☆
		日本古典芸能Ⅱ	1※	C	日本古典芸能Ⅲ	1※	
		日本伝統音楽演習Ⅰ	1※	D	舞踊の歴史と作品	4	
	日本伝統音楽演習Ⅱ	1※	D	民族音楽概論Ⅰ	2※		
	発達心理学	2※		民族音楽概論Ⅱ	2※		
	伴奏法①	2					
	簿記・会計入門	4					

【上表中の注意事項】

- A 履修できる楽器はドラムスのみ。20ページの注意事項も確認すること。
- B 指定された者のみ履修可。シラバスを参照のこと。
- C 「日本古典芸能Ⅰ」の単位を修得した者のみ履修可
- D IとⅡの両方を同学期同時限に履修すること。（\*履修人数制限あり）

## 音楽科 電子オルガンコース（教職課程関係科目）

【教職課程「教科に関する科目」「教科または教職に関する科目」「66条の6に定められた科目」】

教職課程履修者はコースに開講されている科目を以下の通り修得する必要がある。  
教職課程科目履修の詳細は、87ページ以降に記載しているのものでこちらも必ず参照すること。

教科に関する科目	教職課程区分	免許状取得に必要な科目		
		科目名	単位	備考
ソルフェージュ	必修	聴音・視唱ソルフェージュ①	2	
		基本ソルフェージュ①	2	ソルフェージュ斉試験で「基本ソルフェージュ①」を指定された学生のみ必修。その場合は「聴音・視唱ソルフェージュ①」の指定クラスも同時に修得する必要がある。
声楽Ⅱ①		2		
合唱①		2		
日本伝統音楽演習Ⅰ		1		
器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		ピアノⅡ①	2	
		合奏Ⅱ	2	
		伴奏法①	2	
		日本伝統音楽演習Ⅱ	1	
指揮法			指揮法Ⅰ	2
音楽理論、作曲法（編曲法を含む。）及び音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）	必修	西洋音楽史Ⅰ	4	
		日本音楽概論Ⅰ	2	
		民族音楽概論Ⅰ	2	
		ハーモニー演習①	2	
	選択必修	作曲・編曲法	2	2科目のうち1科目選択必修
作曲Ⅱ①		2		
教科または教職に関する科目	必修	西洋音楽史Ⅱ	2	
	選択必修	★鍵盤ソルフェージュ①	2	★修得することが望ましい  左記9科目のうち4単位以上選択必修
		鍵盤ソルフェージュ②	2	
		聴音・視唱ソルフェージュ②	2	
		声楽Ⅱ②	2	
		ピアノⅡ②	2	
		ハーモニー演習②	2	
		音楽基礎演習	2	
		日本音楽概論Ⅱ	2	
		民族音楽概論Ⅱ	2	
教育職員免許法施行規則第66条の6に定められた科目	必修	日本国憲法	2	
		体育理論	2	
		体育実技	1	
	選択必修	情報機器演習（基礎）	2	3科目のうち1科目選択必修
		情報機器演習（応用Ⅰ）	2	
		情報機器演習（応用Ⅱ）	2	
		外国語	2	

コース	<b>弦・管・打楽器コース</b>
獲得できる専門的能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻する弦管打楽器について基礎的な演奏表現ができる。</li> <li>・ソルフェージュ能力に裏付けされた演奏技術が身に付く。</li> <li>・音楽理論を理解し、演奏に反映させることができる。</li> <li>・作品の歴史的背景や様式を理解した演奏ができる。</li> <li>・技術や知識を総合的に高め、感性豊かな表現能力が身に付く。</li> </ul>

**【卒業要件単位数】**

必修		選択必修						選択	
		専門科目 (ソルフェージュ)		外国語科目		教養科目			
1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年
21単位	15単位	最低 2単位	最低 2単位	最低 4単位		最低 2単位 ※必修の教養科目 以外から選択		16単位以上	
合計 36単位 (A)		最低 10単位 (B)						62単位-(A)-(B)	

◎ 「教養科目」区分の科目については、卒業までに最低6単位修得することを卒業要件とする。

(必修の教養科目についてもこの6単位の中に含む。「芸術特別研究Ⅰ・Ⅱ」「基礎ゼミ」)

◎ 選択必修科目のうち、最低修得単位数を超えた分については選択科目の単位となる。

◎ 本学音楽学部への編入学要件については、78ページ以降を参照すること。

◎ 資格課程の履修については、85ページ以降を参照すること。

**【基本的な注意事項(右表参照)】**

- ・ ○数字が付記してある科目は、同じ科目名称同士①②の順番で履修する。  
例)「器楽Ⅰ①」→「器楽Ⅰ②」  
※①②を、同時に履修することは認めない。
- ・ 2年生は2年生の欄に記載されている科目の他に、1年生の科目も履修ができる。
- ・ 単位数に※印が付いている科目は、半期(前期または後期)のみで履修が終わる科目。
- ・ 「副科実技」科目は、2年間で4科目(8単位)まで履修可。
- ・ 「注意」欄に☆印が付いている科目は、社会福祉主事任用資格に関わる科目。(107ページ参照)

**【右表中の注意事項】**

A 「ハーモニー演習①」は楽典参考試験の結果、「音楽基礎演習」の履修を指定された者は1年次に履修することはできない。この場合2年次に履修すること。

B 各資格課程登録者で、これらの科目が必修の者のみ履修可。また、履修する場合、教養科目としても同時に履修することになり、卒業要件単位にも含む。

(※卒業要件単位に含む＝年間履修上限単位数に含む)

- ・ 「教育心理学」=教職課程必修
- ・ 「生涯学習概論Ⅰ」「図書館概論」=司書課程必修





音楽科 弦・管・打楽器コース（選択科目）

平成30(2018)年度入学

		1年			2年		
		科目名	単位	注意	科目名	単位	注意
選択	専門科目	器楽Ⅱ①	2	A	器楽Ⅱ②	2	A
		声乐Ⅱ①	2		声乐Ⅱ②	2	
		アートマネジメント概論Ⅰ	2※		ピアノⅡ②	2	
		アートマネジメント概論Ⅱ	2※		ヴァイオリンステップアップ②	2	B
		ヴァイオリンステップアップ①	2	B	オペラの歴史と作品	4	
		ジャズの歴史と作品	2※		ステージマネージャー演習	1※	
		パフォーマンス①	1	C	ハーモニー演習②	2	
		ポピュラー音楽概論	4		パフォーマンス②	1	C
		ミュージックビジネスと社会	2※		ミュージカルの歴史と作品	2※	
		ライブビジネスと社会	2※		医学一般	2※	☆
		演劇の歴史と作品	2※		音楽教育メソッド実践Ⅱ	2	
		音楽基礎演習	2	C	音楽心理学	2※	
		音楽教育メソッド実践Ⅰ	2		音楽療法各論Ⅰ	2※	
		音楽療法概説	2※		音楽療法各論Ⅱ	2※	
		海外研修Ⅱ	3		介護概論	2※	☆
		海外研修Ⅳ	3		楽式論Ⅰ	2※	
		海外研修Ⅴ	3		楽式論Ⅱ	2※	
		楽器研究	2※		合唱②	2	
		合唱①	2		合奏Ⅱ	2	
		合奏Ⅲ①	2	D	合奏Ⅲ②	2	D
		鍵盤演奏表現Ⅰ	2		看護学演習	2※	
		鍵盤演奏表現Ⅱ	2		経営学Ⅰ	2※	
		作曲家・作品研究	4		芸術関係法規	2※	
		指揮法Ⅰ	2		芸術文化と社会Ⅱ	2※	
		障がい児教育概論	2※		鍵盤演奏表現Ⅲ	2	
		西洋音楽史Ⅱ	2※		鍵盤演奏表現Ⅳ	2	
		日本音楽概論Ⅰ	2※		作曲・編曲法	2	
		日本音楽概論Ⅱ	2※		室内楽	2	
		日本古典芸能Ⅰ	1※		社会福祉概論	2※	☆
		日本古典芸能Ⅱ	1※	E	日本古典芸能Ⅲ	1※	
		日本伝統音楽演習Ⅰ	1※	F	舞踊の歴史と作品	4	
		日本伝統音楽演習Ⅱ	1※	F	民族音楽概論Ⅰ	2※	
発達心理学	2※		民族音楽概論Ⅱ	2※			
伴奏法①	2						
簿記・会計入門	4						

【上表中の注意事項】

- A ヴァイオリン専攻者がヴィオラのレッスンを受ける場合のみ履修可。20ページの注意事項も確認すること。
- B ヴァイオリン専攻者のみ履修可
- C 指定された者のみ履修可。シラバスを参照のこと。
- D 「合奏Ⅲ」は、弦楽器専攻者が吹奏楽を、また管・打楽器専攻者がオーケストラを履修する時に与えられる単位である。指定された者のみ履修可。
- E 「日本古典芸能Ⅰ」の単位を修得した者のみ履修可
- F IとⅡの両方を同学期同時限に履修すること。（\*履修人数制限あり）

## 音楽科 弦・管・打楽器コース（教職課程関係科目）

【教職課程「教科に関する科目」「教科または教職に関する科目」「66条の6に定められた科目」】

教職課程履修者はコースに開講されている科目を以下の通り修得する必要がある。  
 教職課程科目履修の詳細は、87ページ以降に記載しているのものでそちらも必ず参照すること。

教科に関する科目	教職課程区分	免許状取得に必要な科目		
		科目名	単位	備考
ソルフェージュ	必修	聴音・視唱ソルフェージュ①	2	
		基本ソルフェージュ①	2	ソルフェージュ斉試験で「基本ソルフェージュ①」を指定された学生のみ必修。その場合は「聴音・視唱ソルフェージュ①」の指定クラスも同時に修得する必要がある。
声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）		声楽Ⅱ①	2	
		合唱①	2	
		日本伝統音楽演習Ⅰ	1	
器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		ピアノⅡ①	2	
		合奏Ⅱ	2	
		伴奏法①	2	
		日本伝統音楽演習Ⅱ	1	
指揮法		指揮法Ⅰ	2	
音楽理論、作曲法（編曲法を含む。）及び音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）	西洋音楽史Ⅰ	4		
	日本音楽概論Ⅰ	2		
	民族音楽概論Ⅰ	2		
	作曲・編曲法	2		
	ハーモニー演習①	2		
教科または教職に関する科目	必修	西洋音楽史Ⅱ	2	
	選択必修	★鍵盤ソルフェージュ①	2	★修得することが望ましい  左記9科目のうち4単位以上選択必修
		鍵盤ソルフェージュ②	2	
		聴音・視唱ソルフェージュ②	2	
		声楽Ⅱ②	2	
		ピアノⅡ②	2	
		ハーモニー演習②	2	
		音楽基礎演習	2	
		日本音楽概論Ⅱ	2	
		民族音楽概論Ⅱ	2	
教育職員免許法施行規則第66条の6に定められた科目	必修	日本国憲法	2	
		体育理論	2	
		体育実技	1	
	選択必修	情報機器演習（基礎）	2	3科目のうち1科目選択必修
		情報機器演習（応用Ⅰ）	2	
		情報機器演習（応用Ⅱ）	2	
		外国語	2	

コース	ウインドシンフォニーコース
獲得できる専門的能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻する管打楽器について基礎的な演奏表現ができる。</li> <li>・ソルフェージュや音楽理論について理解や能力を高め、演奏に反映させることができる。</li> <li>・合奏を共にする他の楽器についての理解も深め、吹奏楽のサウンドメイクに関する知識を深めることができる。</li> <li>・作品の歴史的背景や様式を理解した演奏ができる。</li> <li>・技術や知識を総合的に高め、感性豊かな表現能力が身に付く。</li> <li>・吹奏楽作品の研究、作編曲、指揮のテクニックなど、バンドディレクターとしての知識を深めることができる。</li> </ul>

### 【卒業要件単位数】

必修		選択必修						選択	
		専門科目 (ソルフェージュ)		外国語科目		教養科目			
1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年
19単位	15単位	最低 2単位	最低 2単位	最低 4単位		最低 2単位 ※必修の教養科目 以外から選択		18単位以上	
合計 34単位 (A)		最低 10単位 (B)						62単位-(A)-(B)	

◎ 「教養科目」区分の科目については、卒業までに最低6単位修得することを卒業要件とする。

(必修の教養科目についてもこの6単位の中に含む。「芸術特別研究Ⅰ・Ⅱ」「基礎ゼミ」)

◎ 選択必修科目のうち、最低修得単位数を超えた分については選択科目の単位となる。

◎ 本学音楽学部への編入学要件については、78ページ以降を参照すること。

◎ 資格課程の履修については、85ページ以降を参照すること。

### 【基本的な注意事項(右表参照)】

- ・ ○数字が付記してある科目は、同じ科目名称同士①②の順番で履修する。  
例)「器楽Ⅰ①」→「器楽Ⅰ②」  
※①②を、同時に履修することは認めない。
- ・ 2年生は2年生の欄に記載されている科目の他に、1年生の科目も履修ができる。
- ・ 単位数に※印が付いている科目は、半期(前期または後期)のみで履修が終わる科目。
- ・ 「副科実技」科目は、2年間で4科目(8単位)まで履修可。
- ・ 「注意」欄に☆印が付いている科目は、社会福祉主事任用資格に関わる科目。(107ページ参照)

### 【右表中の注意事項】

A 「ハーモニー演習①」は楽典参考試験の結果、「音楽基礎演習」の履修を指定された者は1年次に履修することはできない。この場合2年次に履修すること。

B 各資格課程登録者で、これらの科目が必修の者のみ履修可。また、履修する場合、教養科目としても同時に履修することになり、卒業要件単位にも含む。

(※卒業要件単位に含む＝年間履修上限単位数に含む)

- ・ 「教育心理学」=教職課程必修
- ・ 「生涯学習概論Ⅰ」「図書館概論」=司書課程必修



音楽科 ウインドシンフォニーコース（選択科目）

平成30(2018)年度入学

		1年			2年		
		科目名	単位	注意	科目名	単位	注意
選 択 科 目	専 門 科 目	ピアノⅡ①	2		ピアノⅡ②	2	
		器楽Ⅱ①	2	A	器楽Ⅱ②	2	A
		声楽Ⅱ①	2		声楽Ⅱ②	2	
		アートマネジメント概論Ⅰ	2※		ヴァイオリンステップアップ②	2	B
		アートマネジメント概論Ⅱ	2※		オペラの歴史と作品	4	
		ヴァイオリンステップアップ①	2	B	ステージマネージャー演習	1※	
		ジャズの歴史と作品	2※		ハーモニー演習②	2	
		パフォーマンス①	1	C	パフォーマンス②	1	C
		ポピュラー音楽概論	4		ミュージカルの歴史と作品	2※	
		ミュージックビジネスと社会	2※		医学一般	2※	☆
		ライブビジネスと社会	2※		音楽教育メソッド実践Ⅱ	2	
		演劇の歴史と作品	2※		音楽心理学	2※	
		音楽基礎演習	2	C	音楽療法各論Ⅰ	2※	
		音楽教育メソッド実践Ⅰ	2		音楽療法各論Ⅱ	2※	
		音楽療法概説	2※		介護概論	2※	☆
		海外研修Ⅱ	3		楽式論Ⅰ	2※	
		海外研修Ⅳ	3		楽式論Ⅱ	2※	
		海外研修Ⅴ	3		合唱②	2	
		楽器研究	2※		合奏Ⅱ	2	
		合唱①	2		合奏Ⅲ②	2	D
		合奏Ⅲ①	2	D	看護学演習	2※	
		鍵盤演奏表現Ⅰ	2		経営学Ⅰ	2※	
		鍵盤演奏表現Ⅱ	2		芸術関係法規	2※	
		作曲家・作品研究	4		芸術文化と社会Ⅱ	2※	
		指揮演習①	2		鍵盤演奏表現Ⅲ	2	
		指揮法Ⅰ	2		鍵盤演奏表現Ⅳ	2	
		障がい児教育概論	2※		作曲・編曲法	2	
		西洋音楽史Ⅱ	2※		指揮演習②	2	
		日本音楽概論Ⅰ	2※		室内楽	2	
		日本音楽概論Ⅱ	2※		社会福祉概論	2※	☆
		日本古典芸能Ⅰ	1※		日本古典芸能Ⅲ	1※	
		日本古典芸能Ⅱ	1※	E	舞踊の歴史と作品	4	
		日本伝統音楽演習Ⅰ	1※	F	民族音楽概論Ⅰ	2※	
日本伝統音楽演習Ⅱ	1※	F	民族音楽概論Ⅱ	2※			
発達心理学	2※						
伴奏法①	2						
簿記・会計入門	4						

【上表中の注意事項】

- A ヴァイオリン専攻者がヴィオラのレッスンを受ける場合のみ履修可。20ページの注意事項も確認すること。
- B ヴァイオリン専攻者のみ履修可
- C 指定された者のみ履修可。シラバスを参照のこと。
- D 「合奏Ⅲ」は、弦楽器専攻者が吹奏楽を、また管・打楽器専攻者がオーケストラを履修する時に与えられる単位である。指定された者のみ履修可。
- E 「日本古典芸能Ⅰ」の単位を修得した者のみ履修可
- F IとⅡの両方を同学期同時限に履修すること。（\*履修人数制限あり）

## 音楽科 ウインドシンフォニーコース（教職課程関係科目）

【教職課程「教科に関する科目」「教科または教職に関する科目」「66条の6に定められた科目」】

教職課程履修者はコースに開講されている科目を以下の通り修得する必要がある。  
教職課程科目履修の詳細は、87ページ以降に記載しているのでそちらも必ず参照すること。

教科に関する科目	教職課程区分	免許状取得に必要な科目		
		科目名	単位	備考
ソルフェージュ	必修	聴音・視唱ソルフェージュ①	2	
		基本ソルフェージュ①	2	ソルフェージュ斉試験で「基本ソルフェージュ①」を指定された学生のみ必修。その場合は「聴音・視唱ソルフェージュ①」の指定クラスも同時に修得する必要がある。
声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）		声楽Ⅱ①	2	
		合唱①	2	
		日本伝統音楽演習Ⅰ	1	
器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		ピアノⅡ①	2	
		合奏Ⅱ	2	
		伴奏法①	2	
		日本伝統音楽演習Ⅱ	1	
指揮法		指揮法Ⅰ	2	
音楽理論、作曲法（編曲法を含む。）及び音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）	西洋音楽史Ⅰ	4		
	日本音楽概論Ⅰ	2		
	民族音楽概論Ⅰ	2		
	作曲・編曲法	2		
	ハーモニー演習①	2		
教科または教職に関する科目	必修	西洋音楽史Ⅱ	2	
	選択必修	★鍵盤ソルフェージュ①	2	★修得することが望ましい  左記9科目のうち4単位以上選択必修
		鍵盤ソルフェージュ②	2	
		聴音・視唱ソルフェージュ②	2	
		声楽Ⅱ②	2	
		ピアノⅡ②	2	
		ハーモニー演習②	2	
		音楽基礎演習	2	
		日本音楽概論Ⅱ	2	
		民族音楽概論Ⅱ	2	
教育職員免許法施行規則第66条の6に定められた科目	必修	日本国憲法	2	
		体育理論	2	
		体育実技	1	
	選択必修	情報機器演習（基礎）	2	3科目のうち1科目選択必修
		情報機器演習（応用Ⅰ）	2	
		情報機器演習（応用Ⅱ）	2	
		外国語	2	

コース	声楽コース
獲得できる専門的能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベルカント唱法に基づいた声楽の基礎技術およびイタリア語を修得することにより、古典を中心としたイタリア歌曲及びオペラアリアの歌唱ができる。</li> <li>・音楽史を学ぶことにより、時代様式を理解し、背景を考察しながらその時代にあった表現法が身に付く。</li> <li>・日本歌曲を学ぶことにより、詩と音楽との関係による演奏法や、古くからその時代を反映し歌い継がれてきた日本人の心と情緒ある感情表現の歌唱ができる。</li> <li>・演奏会やメサイア公演等を通して、舞台での実践力と表現力を高めることができる。</li> <li>・身体表現法等の専門科目を学修することにより、更に豊かな表現と音楽性が備わった音楽指導ができる。</li> </ul>

### 【卒業要件単位数】

必修		選択必修				選択	
		専門科目 (ソルフェージュ)		教養科目			
1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年
25単位	11単位	最低 2単位		最低 2単位 ※必修の教養科目 以外から選択		22単位以上	
合計 36単位 (A)		最低 4単位 (B)				62単位 - (A) - (B)	

- ◎ 「教養科目」区分の科目については、卒業までに最低6単位修得することを卒業要件とする。  
(必修の教養科目についてもこの6単位の中に含む。「芸術特別研究Ⅰ・Ⅱ」「基礎ゼミ」)
- ◎ 選択必修科目のうち、最低修得単位数を超えた分については選択科目の単位となる。
- ◎ 本学音楽学部への編入学要件については、78ページ以降を参照すること。
- ◎ 資格課程の履修については、85ページ以降を参照すること。

### 【基本的な注意事項(右表参照)】

- ・ ○数字が付記してある科目は、同じ科目名称同士①②の順番で履修する。  
例)「声楽Ⅰ①」→「声楽Ⅰ②」  
※①②を、同時に履修することは認めない。
- ・ 2年生は2年生の欄に記載されている科目の他に、1年生の科目も履修ができる。
- ・ 単位数に※印が付いている科目は、半期(前期または後期)のみで履修が終わる科目。
- ・ 「副科実技」科目は、2年間で4科目(8単位)まで履修可。
- ・ 「注意」欄に☆印が付いている科目は、社会福祉主事任用資格に関わる科目。(107ページ参照)

### 【右表中の注意事項】

- A 「ハーモニー演習①」は楽典参考試験の結果、「音楽基礎演習」の履修を指定された者は1年次に履修することはできない。この場合2年次に履修すること。
- B 各資格課程登録者で、これらの科目が必修の者のみ履修可。また、履修する場合、教養科目としても同時に履修することになり、卒業要件単位にも含む。  
(※卒業要件単位に含む＝年間履修上限単位数に含む)
- ・ 「教育心理学」=教職課程必修
  - ・ 「生涯学習概論Ⅰ」「図書館概論」=司書課程必修



音楽科 声楽コース (必修科目、選択必修科目)

平成30(2018)年度入学

		1年			2年					
		科目名	単位	注意	科目名	単位	注意			
必修	専門科目	声楽Ⅰ①	6	A	声楽Ⅰ②	6				
		ピアノⅡ①	2		ピアノⅡ②	2				
		ハーモニー演習①	2		合唱②	2				
合唱①		2								
西洋音楽史Ⅰ		4								
歌うためのイタリア語		2								
教養科目	芸術特別研究Ⅰ	1		芸術特別研究Ⅱ	1					
	基礎ゼミ	2								
外国語科目	基礎イタリア語	4								
選択必修	専門科目	基本ソルフェージュ①	2		基本ソルフェージュ②	2				
		聴音・視唱ソルフェージュ①	2		聴音・視唱ソルフェージュ②	2				
		鍵盤ソルフェージュ①	2		鍵盤ソルフェージュ②	2				
		総合ソルフェージュ①	2		総合ソルフェージュ②	2				
		ソルフェージュ科目についての詳細は14ページに掲載。必ず参照の上、履修すること。								
	教養科目	演奏とからだⅠ	2※	☆	キャリアデザイン	1※	選択必修の教養科目の中から、最低2単位修得すること。			
		演奏とからだⅡ	2※		音楽活動研究②	1				
		哲学	2※							
		文学	2※							
		心理学	2※							
		心の健康	2※							
		日本文化史Ⅰ	2※							
		日本文化史Ⅱ	2※							
		西洋文化史Ⅰ	2※							
		西洋文化史Ⅱ	2※							
美術史Ⅰ	2※	☆			日本語科目については、18ページを見ること。					
美術史Ⅱ	2※									
日本国憲法	2※									
生活と経済	2※									
経済学	2※									
情報機器演習(基礎)	2※									
情報機器演習(応用)Ⅰ	2※									
情報機器演習(応用)Ⅱ	2※									
体育理論	2※									
体育実技	1※									
音響学	2※	B B B								
ボランティア論	2※									
音楽活動研究①	1									
教育心理学	2※									
生涯学習概論Ⅰ	2※									
図書館概論	2※									
博物館概論	2※									
選択	外国語科目	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	2		初級イタリア語	4				
		初級英語Ⅰ～Ⅴ	2		中級イタリア語Ⅰ	2				
		中級英語Ⅰ～Ⅴ	2		中級イタリア語Ⅱ	2				
		上級英語Ⅰ～Ⅴ	2		上級イタリア語	2				
		基礎ドイツ語	4		初級ドイツ語	4				
		基礎フランス語	4		中級ドイツ語Ⅰ	2				
		外国語科目についての詳細は16ページに掲載。必ず参照の上、履修すること。								
								中級ドイツ語Ⅱ	2	
								上級ドイツ語	2	
								初級フランス語	4	
				中級フランス語	2					
				上級フランス語	2					

◎外国語科目以外の選択科目については次ページに掲載

音楽科 声楽コース（選択科目）

平成30(2018)年度入学

		1年			2年		
		科目名	単位	注意	科目名	単位	注意
選択	専門科目	器楽Ⅱ①	2	A	器楽Ⅱ②	2	A
		電子オルガンⅡ①	2		電子オルガンⅡ②	2	
		アートマネジメント概論Ⅰ	2※		オペラの歴史と作品	4	
		アートマネジメント概論Ⅱ	2※		ステージマネージャー演習	1※	
		ジャズの歴史と作品	2※		ドイツ歌曲①	1※	
		ダンス	2		ハーモニー演習②	2	
		パフォーマンス①	1	B	パフォーマンス②	1	B
		ポピュラー音楽概論	4		フランス歌曲①	1※	
		ミュージックビジネスと社会	2※		ミュージカルの歴史と作品	2※	
		ライブビジネスと社会	2※		医学一般	2※	☆
		演劇の歴史と作品	2※		音楽教育メソッド実践Ⅱ	2	
		音楽基礎演習	2	B	音楽心理学	2※	
		音楽教育メソッド実践Ⅰ	2		音楽療法各論Ⅰ	2※	
		音楽療法概説	2※		音楽療法各論Ⅱ	2※	
		海外研修Ⅱ	3		介護概論	2※	☆
		海外研修Ⅳ	3		楽式論Ⅰ	2※	
		海外研修Ⅴ	3		楽式論Ⅱ	2※	
		合唱指導法①	2		合唱指導法②	2	
		鍵盤演奏表現Ⅰ	2		合奏Ⅱ	2	
		鍵盤演奏表現Ⅱ	2		看護学演習	2※	
		作曲家・作品研究	4		器楽の歴史と作品	4	
		指揮法Ⅰ	2		経営学Ⅰ	2※	
		障がい児教育概論	2※		芸術関係法規	2※	
		身体表現法①	2	C	芸術文化と社会Ⅱ	2※	
		西洋音楽史Ⅱ	2※		鍵盤演奏表現Ⅲ	2	
		日本音楽概論Ⅰ	2※		鍵盤演奏表現Ⅳ	2	
		日本音楽概論Ⅱ	2※		作曲・編曲法	2	
		日本古典芸能Ⅰ	1※		社会福祉概論	2※	☆
		日本古典芸能Ⅱ	1※	D	身体表現法②	2	C
		日本伝統音楽演習Ⅰ	1※	E	声楽アンサンブル基礎	1※	
		日本伝統音楽演習Ⅱ	1※	E	日本古典芸能Ⅲ	1※	
		発達心理学	2※		舞台表現演習②	1※	B
		伴奏法①	2		舞踊の歴史と作品	4	
		舞台表現演習①	1※	B	民族音楽概論Ⅰ	2※	
簿記・会計入門	4		民族音楽概論Ⅱ	2※			

【上表中の注意事項】

- A 「器楽Ⅱ」の履修にあたっては、20ページの注意事項を確認すること。
- B 指定された者のみ履修可。シラバスを参照のこと。
- C 学部3年次編入を希望する者は履修すること。
- D 「日本古典芸能Ⅰ」の単位を修得した者のみ履修可
- E IとⅡの両方を同学期同時限に履修すること。（\*履修人数制限あり）

## 音楽科 声楽コース（教職課程関係科目）

【教職課程「教科に関する科目」「教科または教職に関する科目」「66条の6に定められた科目」】

教職課程履修者はコースに開講されている科目を以下の通り修得する必要がある。  
教職課程科目履修の詳細は、87ページ以降に記載しているのものでそちらも必ず参照すること。

教科に関する科目	教職課程区分	免許状取得に必要な科目		
		科目名	単位	備考
ソルフェージュ	必修	聴音・視唱ソルフェージュ①	2	ソルフェージュ者試験で「基本ソルフェージュ①」を指定された学生のみ必修。その場合は「聴音・視唱ソルフェージュ①」の指定クラスも同時に修得する必要がある。
		基本ソルフェージュ①	2	
声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）		声楽Ⅰ①	6	
		合唱①	2	
		日本伝統音楽演習Ⅰ	1	
器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		ピアノⅡ①	2	
		合奏Ⅱ	2	
		伴奏法①	2	
		日本伝統音楽演習Ⅱ	1	
指揮法		選択必修	指揮法Ⅰ	2
	合唱指導法①		2	
音楽理論、作曲法（編曲法を含む。）及び音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）	必修	西洋音楽史Ⅰ	4	
		日本音楽概論Ⅰ	2	
		民族音楽概論Ⅰ	2	
		作曲・編曲法	2	
		ハーモニー演習①	2	
教科または教職に関する科目	必修	西洋音楽史Ⅱ	2	★修得することが望ましい  左記9科目のうち4単位以上選択必修
	選択必修	★鍵盤ソルフェージュ①	2	
		鍵盤ソルフェージュ②	2	
		聴音・視唱ソルフェージュ②	2	
		声楽Ⅰ②	6	
		ピアノⅡ②	2	
		ハーモニー演習②	2	
		音楽基礎演習	2	
		日本音楽概論Ⅱ	2	
		民族音楽概論Ⅱ	2	
教育職員免許法施行規則第66条の6に定められた科目	必修	日本国憲法	2	3科目のうち1科目選択必修  1科目選択必修 英語・伊語・独語・仏語の種別は問わない
		体育理論	2	
		体育実技	1	
	選択必修	情報機器演習（基礎）	2	
		情報機器演習（応用Ⅰ）	2	
		情報機器演習（応用Ⅱ）	2	
		外国語	2	

コース	合唱指導者コース
獲得できる専門的能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合唱団との良好な信頼関係を構築し、合唱団運営に寄与できる十分なコミュニケーション能力の基礎が身に付く。</li> <li>・合唱団の個性や特質を的確に判断し、団員ひとりひとりの向上および合唱団全体を向上に導く基礎能力が身に付く。</li> <li>・適切な発声・発語指導と指揮技術により、さまざまな合唱作品を豊かなアンサンブルへまとめあげる能力の基礎が身に付く。</li> <li>・さまざまな音楽シーンや演奏形態に応じ、的確な指導、助言ができる。</li> <li>・さまざまなアンサンブルに演奏者と共に取り組む中で、真摯に音楽と自己を対峙させ自己の向上につなげることができる。</li> <li>・音楽芸術を通して謙虚に魅力ある人間形成に臨み、さらに音楽性の涵養に努め、社会の中で着実に自己のキャリアを積み重ねていくことができる。</li> </ul>

### 【卒業要件単位数】

必修		選択必修						選択	
		専門科目 (ソルフェージュ)		外国語科目		教養科目			
1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年
21単位	13単位	最低 2単位		最低 4単位		最低 2単位 ※必修の教養科目 以外から選択		20単位以上	
合計 34単位 (A)		最低 8単位 (B)						62単位-(A)-(B)	

- ◎ 「教養科目」区分の科目については、卒業までに最低6単位修得することを卒業要件とする。  
(必修の教養科目についてもこの6単位の中に含む。「芸術特別研究Ⅰ・Ⅱ」「基礎ゼミ」)
- ◎ 選択必修科目のうち、最低修得単位数を超えた分については選択科目の単位となる。
- ◎ 本学音楽学部への編入学要件については、78ページ以降を参照すること。
- ◎ 資格課程の履修については、85ページ以降を参照すること。

### 【基本的な注意事項(右表参照)】

- ・ ○数字が付記してある科目は、同じ科目名称同士①②の順番で履修する。  
例)「合唱①」→「合唱②」  
※①②を、同時に履修することは認めない。
- ・ 2年生は2年生の欄に記載されている科目の他に、1年生の科目も履修ができる。
- ・ 単位数に※印が付いている科目は、半期(前期または後期)のみで履修が終わる科目。
- ・ 「副科実技」科目は、2年間で4科目(8単位)まで履修可。
- ・ 「注意」欄に☆印が付いている科目は、社会福祉主事任用資格に関わる科目。(107ページ参照)

### 【右表中の注意事項】

- A 「ハーモニー演習①」は楽典参考試験の結果、「音楽基礎演習」の履修を指定された者は1年次に履修することはできない。この場合2年次に履修すること。
- B 各資格課程登録者で、これらの科目が必修の者のみ履修可。また、履修する場合、教養科目としても同時に履修することになり、卒業要件単位にも含む。  
(※卒業要件単位に含む＝年間履修上限単位数に含む)
- ・「教育心理学」=教職課程必修
  - ・「生涯学習概論Ⅰ」「図書館概論」=司書課程必修

音楽科 合唱指導者コース (必修科目、選択必修科目)

平成30(2018)年度入学

		1年			2年		
		科目名	単位	注意	科目名	単位	注意
必修	専門科目	合唱①	2	A	合唱②	2	
		合唱指導法①	2		合唱指導法②	2	
	ピアノⅡ①	2	ピアノⅡ②		2		
	ハーモニー演習①	2	声楽②		4		
	声楽①	4	歌唱法②		2		
	歌唱法①	2					
	西洋音楽史Ⅰ	4					
	教養科目	芸術特別研究Ⅰ	1			芸術特別研究Ⅱ	1
		基礎ゼミ	2				
	専門科目	基本ソルフェージュ①	2		基本ソルフェージュ②	2	
		聴音・視唱ソルフェージュ①	2		聴音・視唱ソルフェージュ②	2	
		鍵盤ソルフェージュ①	2		鍵盤ソルフェージュ②	2	
		総合ソルフェージュ①	2		総合ソルフェージュ②	2	
ソルフェージュ科目についての詳細は14ページに掲載。必ず参照の上、履修すること。							
	外国語科目	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	2		初級イタリア語	4	
		初級英語Ⅰ～Ⅴ	2		中級イタリア語Ⅰ	2	
		中級英語Ⅰ～Ⅴ	2		中級イタリア語Ⅱ	2	
		上級英語Ⅰ～Ⅴ	2		上級イタリア語	2	
		基礎イタリア語	4		初級ドイツ語	4	
		基礎ドイツ語	4		中級ドイツ語Ⅰ	2	
		基礎フランス語	4		中級ドイツ語Ⅱ	2	
					上級ドイツ語	2	
					初級フランス語	4	
					中級フランス語	2	
					上級フランス語	2	
外国語科目についての詳細は16ページに掲載。必ず参照の上、履修すること。							
選択必修	教養科目	演奏とからだⅠ	2※	☆	キャリアデザイン	1※	1
		演奏とからだⅡ	2※		音楽活動研究②	1	
		哲学	2※		選択必修の教養科目の中から、最低2単位修得すること。		
		文学	2※				
		心理学	2※				
		心の健康	2※				
		日本文化史Ⅰ	2※				
		日本文化史Ⅱ	2※				
		西洋文化史Ⅰ	2※				
		西洋文化史Ⅱ	2※				
		美術史Ⅰ	2※				
		美術史Ⅱ	2※				
		日本国憲法	2※				
		生活と経済	2※				
		経済学	2※	☆			
		情報機器演習(基礎)	2※				
		情報機器演習(応用)Ⅰ	2※				
		情報機器演習(応用)Ⅱ	2※				
		体育理論	2※				
		体育実技	1※				
		音響学	2※				
		ボランティア論	2※				
		音楽活動研究①	1		日本語科目については、18ページを見ること。		
		教育心理学	2※	B			
		生涯学習概論Ⅰ	2※	B			
		図書館概論	2※	B			
		博物館概論	2※				

◎選択科目については次ページに掲載

音楽科 合唱指導者コース（選択科目）

平成30(2018)年度入学

		1年			2年		
		科目名	単位	注意	科目名	単位	注意
選択	専門科目	器楽Ⅱ①	2	A	器楽Ⅱ②	2	A
		電子オルガンⅡ①	2		電子オルガンⅡ②	2	
		アートマネジメント概論Ⅰ	2※		オペラの歴史と作品	4	
		アートマネジメント概論Ⅱ	2※		スコアリーディング②	2	
		ジャズの歴史と作品	2※		ステージマネージャー演習	1※	
		スコアリーディング①	2	B	ドイツ歌曲①	1※	
		パフォーマンス①	1	C	ハーモニー演習②	2	
		ポピュラー音楽概論	4		パフォーマンス②	1	C
		ミュージックビジネスと社会	2※		フランス歌曲①	1※	
		ライブビジネスと社会	2※		ミュージカルの歴史と作品	2※	
		演劇の歴史と作品	2※		医学一般	2※	☆
		音楽基礎演習	2	C	音楽教育メソッド実践Ⅱ	2	
		音楽教育メソッド実践Ⅰ	2		音楽心理学	2※	
		音楽療法概説	2※		音楽療法各論Ⅰ	2※	
		歌うためのイタリア語	2	D	音楽療法各論Ⅱ	2※	
		海外研修Ⅱ	3		介護概論	2※	☆
		海外研修Ⅳ	3		楽式論Ⅰ	2※	
		海外研修Ⅴ	3		楽式論Ⅱ	2※	
		合唱①	2		合奏Ⅱ	2	
		鍵盤演奏表現Ⅰ	2		看護学演習	2※	
		鍵盤演奏表現Ⅱ	2		器楽の歴史と作品	4	
		作曲家・作品研究	4		経営学Ⅰ	2※	
		障がい児教育概論	2※		芸術関係法規	2※	
		身体表現法①	2	D	芸術文化と社会Ⅱ	2※	
		西洋音楽史Ⅱ	2※		鍵盤演奏表現Ⅲ	2	
		日本音楽概論Ⅰ	2※		鍵盤演奏表現Ⅳ	2	
		日本音楽概論Ⅱ	2※		作曲・編曲法	2	
		日本古典芸能Ⅰ	1※		社会福祉概論	2※	☆
		日本古典芸能Ⅱ	1※	E	身体表現法②	2	D
		日本伝統音楽演習Ⅰ	1※	F	声楽アンサンブル基礎	1※	
		日本伝統音楽演習Ⅱ	1※	F	日本古典芸能Ⅲ	1※	
		発達心理学	2※		舞踊の歴史と作品	4	
伴奏法①	2		民族音楽概論Ⅰ	2※			
簿記・会計入門	4		民族音楽概論Ⅱ	2※			

【上表中の注意事項】

- A 「器楽Ⅱ」の履修にあたっては、20ページの注意事項を確認すること。
- B 履修制限あり。シラバスを参照のこと。
- C 指定された者のみ履修可。シラバスを参照のこと。
- D 大学声楽学科声楽コースに3年次編入を希望する学生は履修すること。
- E 「日本古典芸能Ⅰ」の単位を修得した者のみ履修可
- F IとⅡの両方を同学期同時限に履修すること。（\*履修人数制限あり）

## 音楽科 合唱指導者コース（教職課程関係科目）

【教職課程「教科に関する科目」「教科または教職に関する科目」「66条の6に定められた科目」】

教職課程履修者はコースに開講されている科目を以下の通り修得する必要がある。  
教職課程科目履修の詳細は、87ページ以降に記載しているのものでそちらも必ず参照すること。

教科に関する科目	教職課程区分	免許状取得に必要な科目		
		科目名	単位	備考
ソルフェージュ	必修	聴音・視唱ソルフェージュ①	2	ソルフェージュ者試験で「基本ソルフェージュ①」を指定された学生のみ必修。その場合は「聴音・視唱ソルフェージュ①」の指定クラスも同時に修得する必要がある。
		基本ソルフェージュ①	2	
声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）		声楽①	4	
		合唱①	2	
		日本伝統音楽演習Ⅰ	1	
器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		ピアノⅡ①	2	
		合奏Ⅱ	2	
		伴奏法①	2	
		日本伝統音楽演習Ⅱ	1	
指揮法		選択必修	合唱指導法①	2
音楽理論、作曲法（編曲法を含む。）及び音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）	必修	西洋音楽史Ⅰ	4	
		日本音楽概論Ⅰ	2	
		民族音楽概論Ⅰ	2	
		作曲・編曲法	2	
		ハーモニー演習①	2	
教科または教職に関する科目	必修	西洋音楽史Ⅱ	2	★修得することが望ましい  左記9科目のうち4単位以上選択必修
	選択必修	★鍵盤ソルフェージュ①	2	
		鍵盤ソルフェージュ②	2	
		聴音・視唱ソルフェージュ②	2	
		声楽②	4	
		ピアノⅡ②	2	
		ハーモニー演習②	2	
		音楽基礎演習	2	
		日本音楽概論Ⅱ	2	
		民族音楽概論Ⅱ	2	
教育職員免許法施行規則第66条の6に定められた科目	必修	日本国憲法	2	3科目のうち1科目選択必修  1科目選択必修 英語・伊語・独語・仏語の種別は問わない
		体育理論	2	
		体育実技	1	
	選択必修	情報機器演習（基礎）	2	
		情報機器演習（応用Ⅰ）	2	
		情報機器演習（応用Ⅱ）	2	
		外国語	2	

コース	音楽教養コース
獲得できる専門的能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>幅広い音楽的体験を通して、楽器演奏等における自らの表現能力を向上させる。</li> <li>作曲家や作品について幅広く理解できる。</li> <li>さまざまな楽器の歴史の変遷と奏法についての理解を深めることができる。</li> <li>コース内でのアンサンブルを通じて協調性やコミュニケーション能力を高めることができる。</li> <li>出演するコンサートの運営に携わることにより、演奏会の準備・企画等の能力が養成される。</li> <li>多様な芸術に触れることにより、さまざまな時代様式について教養を深めることができる。</li> </ul>

### 【卒業要件単位数】

必修		選択必修										選択	
		専門科目						外国語科目		教養科目			
		実技・演習科目		ソルフェージュ		音楽理論							
1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年
16 単位	7 単位	4 単位	4 単位	最低 2単位		最低 2単位		最低 4単位		最低 2単位 ※必修の教養科目 以外から選択		21単位以上	
合計 23単位 (A)		最低 18単位 (B)										62単位-(A)-(B)	

- ◎ 「教養科目」区分の科目については、卒業までに最低6単位修得することを卒業要件とする。  
(必修の教養科目についてもこの6単位の中に含む。「芸術特別研究Ⅰ・Ⅱ」「基礎ゼミ」)
- ◎ 選択必修科目のうち、最低修得単位数を超えた分については選択科目の単位となる。
- ◎ 本学音楽学部への編入学要件については、78ページ以降を参照すること。
- ◎ 資格課程の履修については、85ページ以降を参照すること。

### 【基本的な注意事項(右表参照)】

- 数字が付記してある科目は、同じ科目名称同士①②の順番で履修する。  
例)「ピアノ①」→「ピアノ②」  
※①②を、同時に履修することは認めない。
- ・ 2年生は2年生の欄に記載されている科目の他に、1年生の科目も履修ができる。
- ・ 単位数に※印が付いている科目は、半期(前期または後期)のみで履修が終わる科目。
- ・ 「注意」欄に☆印が付いている科目は、社会福祉主事任用資格に関わる科目。(107ページ参照)

### 【実技科目履修についての注意事項】

- ・ 実技・演習科目については右表の選択必修科目の中から、年間4単位、2年間で8単位を修得すること。
- ・ 主専攻実技と同名のⅡ科目は履修できない。(ピアノ①とピアノⅡ①など)
- ・ インストゥルメンツⅡで専攻できる楽器はサクソフォーン、トランペット、トロンボーン、ギター、ベース、ドラムスとし、2年次に楽器の変更はできない。
- ・ 器楽Ⅱについては2年次に楽器の変更ができる。
- ・ 「ポピュラー・ジャズピアノⅡ」、「インストゥルメンツⅡ」、「ポピュラーヴォーカルⅡ」を同時に2科目以上履修することはできない。

### 【右表中の注意事項】

- A 「ピアノⅡ①」の履修を希望する学生は、レッスン希望アンケートの結果により「鍵盤演奏表現Ⅰ」を履修しなければならないことがある。この場合、「ピアノⅡ①」は2年次に履修可。
- B 「器楽Ⅱ」・「インストゥルメンツⅡ」の履修にあたっては、20ページの注意事項も確認すること。
- C 音楽理論は参考試験により、初年度の履修科目を指定する。卒業要件は2単位。4単位履修可能。
- D 各資格課程登録者で、これらの科目が必修の者のみ履修可。また、履修する場合、教養科目としても同時に履修することになり、卒業要件単位にも含む。  
(※卒業要件単位に含む=年間履修上限単位数に含む)
- ・ 「教育心理学」=教職課程必修
- ・ 「生涯学習概論Ⅰ」「図書館概論」=司書課程必修



音楽科 音楽教養コース（必修科目、選択必修科目）

平成30(2018)年度入学

		1年				2年			
		科目名		単位	注意	科目名		単位	注意
必修	専門科目	ピアノ主専攻	ピアノ①	いずれか 1科目を 主専攻として 2年間履修	4	ピアノ②	4		
		器楽主専攻	器楽①		4	器楽②	4		
		電子オルガン主専攻	電子オルガン①		4	電子オルガン②	4		
		声楽主専攻	声楽①		4	声楽②	4		
		バレエ主専攻	バレエ①		4	バレエ②	4		
	専門科目	音楽教養基礎 音楽教養表現Ⅰ 楽器研究 作曲家・作品研究	2※ 1※ 2※ 4		音楽教養表現Ⅱ	2			
教養科目	芸術特別研究Ⅰ 基礎ゼミ	1 2		芸術特別研究Ⅱ	1				
選択必修	専門科目	実技・演習科目	ピアノⅡ①	2	A	ピアノⅡ②	2	B	
			鍵盤演奏表現Ⅰ	2	A	器楽Ⅱ②	2		
			器楽Ⅱ①	2	B	電子オルガンⅡ②	2	B	
			電子オルガンⅡ①	2		オルガンⅡ②	2		
			オルガンⅡ①	2		声楽Ⅱ②	2		
			声楽Ⅱ①	2		ポピュラー・ジャズピアノⅡ②	2		
			ポピュラー・ジャズピアノⅡ①	2		ポピュラーヴォーカルⅡ②	2		
			ポピュラーヴォーカルⅡ①	2	B	インストゥルメンツⅡ②	2		
			インストゥルメンツⅡ①	2		作曲Ⅱ②	2		
			作曲Ⅱ①	2		バレエⅡ②	2		
バレエⅡ①	2		卒業研究	2					
ソルフェージュ	基本ソルフェージュ①	2		基本ソルフェージュ②	2				
	聴音・視唱ソルフェージュ①	2		聴音・視唱ソルフェージュ②	2				
	鍵盤ソルフェージュ①	2		鍵盤ソルフェージュ②	2				
	総合ソルフェージュ①	2		総合ソルフェージュ②	2				
ソルフェージュ科目についての詳細は14ページに掲載。必ず参照の上、履修すること。									
音楽理論	ハーモニー演習①	2	C						
	音楽基礎演習	2	C						
外国語科目	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	2		初級イタリア語	4				
	初級英語Ⅰ～Ⅴ	2		中級イタリア語Ⅰ	2				
	中級英語Ⅰ～Ⅴ	2		中級イタリア語Ⅱ	2				
	上級英語Ⅰ～Ⅴ	2		上級イタリア語	2				
	基礎イタリア語	4		初級ドイツ語	4				
	基礎ドイツ語	4		中級ドイツ語Ⅰ	2				
	基礎フランス語	4		中級ドイツ語Ⅱ	2				
				上級ドイツ語	2				
外国語科目についての詳細は16ページに掲載。必ず参照の上、履修すること。									
教養科目	演奏とからだⅠ	2※		キャリアデザイン	1※				
	演奏とからだⅡ	2※		音楽活動研究②	1				
	哲学	2※		選択必修の教養科目の中から、 最低2単位修得すること。					
	文学	2※							
	心理学	2※	☆						
	心の健康	2※							
	日本文化史Ⅰ	2※							
	日本文化史Ⅱ	2※							
	西洋文化史Ⅰ	2※							
	西洋文化史Ⅱ	2※							
	美術史Ⅰ	2※							
	美術史Ⅱ	2※							
	日本国憲法	2※							
	生活と経済	2※							
	経済学	2※	☆						
	情報機器演習(基礎)	2※							
	情報機器演習(応用)Ⅰ	2※							
	情報機器演習(応用)Ⅱ	2※							
	体育理論	2※							
	体育実技	1※							
	音響学	2※							
	ボランティア論	2※							
	音楽活動研究①	1							
	教育心理学	2※	D						
生涯学習概論Ⅰ	2※	D							
図書館概論	2※	D							
博物館概論	2※								
日本語科目については、 18ページを見ること。									

◎選択科目については次ページに掲載

音楽科 音楽教養コース（選択科目）

平成30(2018)年度入学

		1年			2年		
		科目名	単位	注意	科目名	単位	注意
選 択 専 門 科 目		アートマネジメント概論Ⅰ	2※		オペラの歴史と作品	4	
		アートマネジメント概論Ⅱ	2※		コンピュータ音楽概論	4	
		ジャズの歴史と作品	2※		ステージマネージャー演習	1※	
		パフォーマンス①	1	A	ドイツ歌曲①	1※	D
		バレエ演習Ⅱ①	2	BC	ハーモニー演習②	2	
		バレエ音楽演習①	2		パフォーマンス②	1	A
		バレエ指導法演習①	2	BC	バレエ演習Ⅱ②	2	B
		ポピュラー音楽概論	4		バレエ音楽演習②	2	
		ミュージックビジネスと社会	2※		バレエ指導法演習②	2	B
		メディア創作演習①	2		フランス歌曲①	1※	D
		ライブビジネスと社会	2※		ミュージカルの歴史と作品	2※	
		歌うためのイタリア語	2	D	メディア創作演習②	2	
		演劇の歴史と作品	2※		医学一般	2※	☆
		音楽教育メソッド実践Ⅰ	2		音楽教育メソッド実践Ⅱ	2	
		音楽療法概説	2※		音楽教養演習Ⅰ	1※	
		海外研修Ⅱ	3		音楽教養特論	2※	
		海外研修Ⅳ	3		音楽心理学	2※	
		海外研修Ⅴ	3		音楽療法各論Ⅰ	2※	
		解剖学	4		音楽療法各論Ⅱ	2※	
		合唱①	2		介護概論	2※	☆
		合奏Ⅳ①	2	A	楽式論Ⅰ	2※	
		鍵盤演奏表現Ⅱ	2		楽式論Ⅱ	2※	
		指揮法Ⅰ	2		合唱②	2	
		指導者基礎Ⅰ	2	E	合奏Ⅱ	2	
		障がい児教育概論	2※		合奏Ⅳ②	2	A
		西洋音楽史Ⅰ	4		看護学演習	2※	
		西洋音楽史Ⅱ	2※		器楽の歴史と作品	4	
		日本音楽概論Ⅰ	2※		経営学Ⅰ	2※	
		日本音楽概論Ⅱ	2※		芸術関係法規	2※	
		日本古典芸能Ⅰ	1※		芸術文化と社会Ⅱ	2※	
		日本古典芸能Ⅱ	1※	F	鍵盤演奏表現Ⅲ	2	
		日本伝統音楽演習Ⅰ	1※	G	鍵盤演奏表現Ⅳ	2	
		日本伝統音楽演習Ⅱ	1※	G	鍵盤音楽の歴史と作品	4	
		発達心理学	2※		作曲・編曲法	2	
		伴奏実習基礎	2	H	指導者基礎Ⅱ	2	E
		伴奏法①	2		児童心理	2※	
		簿記・会計入門	4		社会福祉概論	2※	☆
					声楽アンサンブル基礎	1※	D
					動作学	4	B
					日本古典芸能Ⅲ	1※	
				伴奏実習	1	H	
				舞踊の歴史と作品	4		
				舞踊史	4	BC	
				舞踊心理学	4		
				民族音楽概論Ⅰ	2※		
				民族音楽概論Ⅱ	2※		

【上表中の注意事項】

- A 指定された者のみ履修可。シラバスを参照のこと。
- B 「バレエ①」履修者のみ履修可。
- C 学部バレエコース編入希望者は必修。但し履修制限がある。
- D 「声楽①」履修者のみ履修可。
- E 「指導者基礎Ⅰ」・「指導者基礎Ⅱ」の履修については、「ピアノ①」・「ピアノ②」(ピアノ45分レッスン)を履修している者に限る。
- F 「日本古典芸能Ⅰ」の単位を修得した者のみ履修可
- G ⅠとⅡの両方を同学期同時限に履修すること。（\*履修人数制限あり）
- H 「ピアノ①」履修者のみ履修可。

また、2年次に「伴奏実習」(ハレ伴奏)を選択する学生は、「伴奏実習基礎」を履修することが望ましい。

## 音楽科 音楽教養コース（教職課程関係科目）

【教職課程「教科に関する科目」「教科または教職に関する科目」「66条の6に定められた科目」】

教職課程履修者はコースに開講されている科目を以下の通り修得する必要がある。  
教職課程科目履修の詳細は、87ページ以降に記載しているのものでこちらも必ず参照すること。

教科に関する科目	教職課程区分	免許状取得に必要な科目		
		科目名	単位	備考
ソルフェージュ	必修	聴音・視唱ソルフェージュ①	2	
		基本ソルフェージュ①	2	ソルフェージュ斉試験で「基本ソルフェージュ①」を指定された学生のみ必修。その場合は「聴音・視唱ソルフェージュ①」の指定クラスも同時に修得する必要がある。
声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）	選択必修	合唱①	2	
		日本伝統音楽演習Ⅰ	1	
		声楽① 声楽Ⅱ①	4 2	2科目のうち1科目選択必修
器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）	必修	合奏Ⅱ	2	
		伴奏法①	2	
		日本伝統音楽演習Ⅱ	1	
	選択必修	ピアノ①	4	2科目のうち1科目選択必修
		ピアノⅡ①	2	
指揮法	必修	指揮法Ⅰ	2	
音楽理論、作曲法（編曲法を含む。）及び音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）	必修	西洋音楽史Ⅱ	2	
		日本音楽概論Ⅰ	2	
		民族音楽概論Ⅰ	2	
	選択必修	ハーモニー演習①	2	2科目のうち1科目選択必修
		音楽基礎演習	2	
		作曲・編曲法 作曲Ⅱ①	2 2	2科目のうち1科目選択必修
教科または教職に関する科目	必修	西洋音楽史Ⅰ	4	
	選択必修	★鍵盤ソルフェージュ①	2	★修得することが望ましい  左記10科目のうち4単位以上選択必修
		鍵盤ソルフェージュ②	2	
		聴音・視唱ソルフェージュ②	2	
		声楽②	4	
		声楽Ⅱ②	2	
		ピアノ②	4	
		ピアノⅡ②	2	
		ハーモニー演習②	2	
	日本音楽概論Ⅱ	2		
民族音楽概論Ⅱ	2			
教育職員免許法施行規則第66条の6に定められた科目	必修	日本国憲法	2	
		体育理論	2	
		体育実技	1	
	選択必修	情報機器演習（基礎）	2	3科目のうち1科目選択必修
		情報機器演習（応用Ⅰ）	2	
		情報機器演習（応用Ⅱ）	2	
		外国語	2	

コース	バレエコース
獲得できる専門的能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラシック・バレエの正確なテクニックを理解し、技術が向上する。</li> <li>・キャラクター、コンテンポラリー、レパートリー作品などさまざまなスタイルの動きを学ぶことによって、身体能力と表現力を高めることができる。</li> <li>・作品や振付家について理解を深め、実演能力を向上させることができる。</li> <li>・バレエに関する幅広い知識を修得し、論理的な思考を実践できる。</li> <li>・前後期試演会、卒業公演を通して、舞台を取り巻く環境を理解し、ダンサーとしての姿勢と自覚が身に付く。</li> </ul>

### 【卒業要件単位数】

必修		選択必修						選択	
		専門科目(ピアノ)		外国語科目		教養科目			
1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年
20単位	24単位	最低 2単位		最低 4単位		最低 2単位 ※必修の教養科目 以外から選択		10単位以上	
合計 44単位 (A)		最低 8単位 (B)						62単位 - (A) - (B)	

◎ 「教養科目」区分の科目については、卒業までに最低6単位修得することを卒業要件とする。

(必修の教養科目についてもこの6単位の中に含む。「芸術特別研究Ⅰ・Ⅱ」「基礎ゼミ」)

◎ 選択必修科目のうち、最低修得単位数を超えた分については選択科目の単位となる。

◎ 本学音楽学部への編入学要件については、78ページ以降を参照すること。

◎ 資格課程の履修については、85ページ以降を参照すること。

### 【基本的な注意事項(右表参照)】

- ・ ○数字が付記してある科目は、同じ科目名称同士①②の順番で履修する。  
例)「バレエ・クラスⅠ①」→「バレエ・クラスⅠ②」  
※①②を、同時に履修することは認めない。
- ・ 2年生は2年生の欄に記載されている科目の他に、1年生の科目も履修ができる。
- ・ 単位数に※印が付いている科目は、半期(前期または後期)のみで履修が終わる科目。
- ・ 「副科実技」科目は、2年間で4科目(8単位)まで履修可。
- ・ 「注意」欄に☆印が付いている科目は、社会福祉主事任用資格に関わる科目。(107ページ参照)

### 【右表中の注意事項】

A 「ピアノⅡ①」または「鍵盤演奏表現Ⅰ」のいずれか1科目選択必修。

ただし、「ピアノⅡ①」の履修を希望する学生は、レッスン希望アンケートの結果により「鍵盤演奏表現Ⅰ」を履修しなければならないことがある。この場合、「ピアノⅡ①」は2年次に履修可。

B 各資格課程登録者で、これらの科目が必修の者のみ履修可。また、履修する場合、教養科目としても同時に履修することになり、卒業要件単位にも含む。

(※卒業要件単位に含む＝年間履修上限単位数に含む)

- ・ 「教育心理学」=教職課程必修
- ・ 「生涯学習概論Ⅰ」「図書館概論」=司書課程必修

音楽科 バレエコース (必修科目、選択必修科目)

平成30(2018)年度入学

		1年			2年		
		科目名	単位	注意	科目名	単位	注意
必修	専門科目	バレエ・クラスⅠ①	2		バレエ・クラスⅠ②	2	
		バレエ演習Ⅰ①	2		バレエ演習Ⅰ②	2	
		バレエ演習Ⅱ①	2		バレエ演習Ⅱ②	2	
		バレエ演習Ⅲ①	2		バレエ演習Ⅲ②	2	
		バレエ演習Ⅳ①	2		バレエ演習Ⅳ②	2	
		公演実習①	1※		公演実習②	1※	
		バレエ音楽演習①	2		動作学	4	
		解剖学	4		舞踊心理学	4	
					舞踊史	4	
	教養科目	芸術特別研究Ⅰ	1		芸術特別研究Ⅱ	1	
		基礎ゼミ	2				
選択必修	専門科目	ピアノⅡ①	2	A			
		鍵盤演奏表現Ⅰ	2	A			
	外国語科目	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	2		初級イタリア語	4	
		初級英語Ⅰ～Ⅴ	2		中級イタリア語Ⅰ	2	
		中級英語Ⅰ～Ⅴ	2		中級イタリア語Ⅱ	2	
		上級英語Ⅰ～Ⅴ	2		上級イタリア語	2	
		基礎イタリア語	4		初級ドイツ語	4	
		基礎ドイツ語	4		中級ドイツ語Ⅰ	2	
		基礎フランス語	4		中級ドイツ語Ⅱ	2	
				上級ドイツ語	2		
				初級フランス語	4		
				中級フランス語	2		
				上級フランス語	2		
				キャリアデザイン	1※		
				音楽活動研究②	1		
教養科目	演奏とからだⅠ	2※		☆	選択必修の教養科目の中から、最低2単位修得すること。		
	演奏とからだⅡ	2※					
	哲学	2※					
	文学	2※					
	心理学	2※					
	心の健康	2※					
	日本文化史Ⅰ	2※					
	日本文化史Ⅱ	2※					
	西洋文化史Ⅰ	2※					
	西洋文化史Ⅱ	2※					
	美術史Ⅰ	2※		☆	日本語科目については、18ページを見ること。		
	美術史Ⅱ	2※					
	日本国憲法	2※					
	生活と経済	2※					
	経済学	2※					
	情報機器演習(基礎)	2※					
	情報機器演習(応用)Ⅰ	2※					
	情報機器演習(応用)Ⅱ	2※					
	体育理論	2※					
	体育実技	1※					
音響学	2※						
ボランティア論	2※						
音楽活動研究①	1						
教育心理学	2※	B					
生涯学習概論Ⅰ	2※	B					
図書館概論	2※	B					
博物館概論	2※						

◎選択科目については次ページに掲載

音楽科 バレエコース（選択科目）

平成30(2018)年度入学

		1年			2年		
		科目名	単位	注意	科目名	単位	注意
選択	専門科目	声楽Ⅱ①	2		ピアノⅡ②	2	
		アートマネジメント概論Ⅰ	2※		声楽Ⅱ②	2	
		アートマネジメント概論Ⅱ	2※		オペラの歴史と作品	4	
		ジャズダンス	2		ステージマネージャー演習	1※	
		ジャズの歴史と作品	2※		パフォーマンス②	1	A
		タップダンス①	2		バレエ・クラスⅡ②	2	
		パフォーマンス①	1	A	バレエ・クラスⅢ②	2	
		バレエ・クラスⅡ①	2		バレエ・クラスⅣ②	2	
		バレエ・クラスⅢ①	2		バレエ・クラスⅤ②	2	
		バレエ・クラスⅣ①	2		バレエ演習Ⅴ②	2	
		バレエ・クラスⅤ①	2		バレエ演習Ⅵ②	2	
		バレエ演習Ⅴ①	2		バレエ音楽演習②	2	
		バレエ演習Ⅵ①	2		バレエ作品研究	4	
		バレエ指導法演習①	2		バレエ指導法演習②	2	
		ボディコンディショニング	2		ミュージカルの歴史と作品	2※	
		ポピュラー音楽概論	4		医学一般	2※	☆
		ミュージックビジネスと社会	2※		音楽教育メソッド実践Ⅱ	2	
		ライブビジネスと社会	2※		音楽心理学	2※	
		栄養学演習	1※		音楽療法各論Ⅰ	2※	
		演劇の歴史と作品	2※		音楽療法各論Ⅱ	2※	
		音楽基礎演習	2		介護概論	2※	☆
		音楽教育メソッド実践Ⅰ	2		合奏Ⅱ	2	
		音楽療法概説	2※		看護学演習	2※	
		海外研修Ⅱ	3		経営学Ⅰ	2※	
		海外研修Ⅳ	3		芸術関係法規	2※	
		海外研修Ⅴ	3		芸術文化と社会Ⅱ	2※	
		合唱①	2		鍵盤演奏表現Ⅲ	2	
		鍵盤演奏表現Ⅱ	2		鍵盤演奏表現Ⅳ	2	
		作曲家・作品研究	4		作曲・編曲法	2	
		指揮法Ⅰ	2		社会福祉概論	2※	☆
		障がい児教育概論	2※		日本古典芸能Ⅲ	1※	
		西洋音楽史Ⅰ	4		舞台実習	2	
		西洋音楽史Ⅱ	2※		民族音楽概論Ⅰ	2※	
		日本音楽概論Ⅰ	2※		民族音楽概論Ⅱ	2※	
		日本音楽概論Ⅱ	2※				
		日本古典芸能Ⅰ	1※				
日本古典芸能Ⅱ	1※	B					
日本伝統音楽演習Ⅰ	1※	C					
日本伝統音楽演習Ⅱ	1※	C					
発達心理学	2※						
伴奏法①	2						
舞台衣裳製作法	2						
簿記・会計入門	4						
基本ソルフェージュ①	2		基本ソルフェージュ②	2			
聴音・視唱ソルフェージュ①	2		聴音・視唱ソルフェージュ②	2			
鍵盤ソルフェージュ①	2		鍵盤ソルフェージュ②	2			
総合ソルフェージュ①	2		総合ソルフェージュ②	2			
ソルフェージュ科目についての詳細は14ページに掲載。必ず参照の上、履修すること。							

【上表中の注意事項】

- A 指定された者のみ履修可。シラバスを参照のこと。
- B 「日本古典芸能Ⅰ」の単位を修得した者のみ履修可
- C IとⅡの両方を同学期同時限に履修すること。（\*履修人数制限あり）

## 音楽科 バレエコース（教職課程関係科目）

【教職課程「教科に関する科目」「教科または教職に関する科目」「66条の6に定められた科目」】

教職課程履修者はコースに開講されている科目を以下の通り修得する必要がある。  
教職課程科目履修の詳細は、87ページ以降に記載しているのものでそちらも必ず参照すること。

教科に関する科目	教職課程区分	免許状取得に必要な科目		
		科目名	単位	備考
ソルフェージュ	必修	聴音・視唱ソルフェージュ①	2	
		基本ソルフェージュ①	2	ソルフェージュ斉試験で「基本ソルフェージュ①」を指定された学生のみ必修。その場合は「聴音・視唱ソルフェージュ①」の指定クラスも同時に修得する必要がある。
声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）		声楽Ⅱ①	4	
		合唱①	2	
		日本伝統音楽演習Ⅰ	1	
器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		ピアノⅡ①	2	
		合奏Ⅱ	2	
		伴奏法①	2	
		日本伝統音楽演習Ⅱ	1	
指揮法		指揮法Ⅰ	2	
音楽理論、作曲法（編曲法を含む。）及び音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）	音楽基礎演習	2		
	西洋音楽史Ⅰ	4		
	作曲・編曲法	2		
	日本音楽概論Ⅰ	2		
	民族音楽概論Ⅰ	2		
教科または教職に関する科目	必修	西洋音楽史Ⅱ	2	
	選択必修	★鍵盤ソルフェージュ①	2	★修得することが望ましい  左記7科目のうち4単位以上選択必修
		鍵盤ソルフェージュ②	2	
		聴音・視唱ソルフェージュ②	2	
		声楽Ⅱ②	4	
		ピアノⅡ②	2	
		日本音楽概論Ⅱ	2	
		民族音楽概論Ⅱ	2	
教育職員免許法施行規則第66条の6に定められた科目	必修	日本国憲法	2	
		体育理論	2	
		体育実技	1	
	選択必修	情報機器演習（基礎）	2	3科目のうち1科目選択必修
		情報機器演習（応用Ⅰ）	2	
		情報機器演習（応用Ⅱ）	2	
		外国語	2	

コース	<b>デジタルミュージックコース</b>
獲得できる専門的能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルテクノロジーを用いた音楽作品の創作ができる。</li> <li>・クラシックからポピュラー音楽までの作曲技術の基礎能力が身に付く。</li> <li>・さまざまな音楽産業で音楽制作、エンジニア、ゲーム音楽等の業務に携わることができる。</li> </ul>

**【卒業要件単位数】**

必修		選択必修								選択	
		専門科目				外国語科目		教養科目			
		ミュージックセオリー		ソルフエージュ							
1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年		
27単位	13単位	最低 2単位		最低 2単位		最低 4単位		最低 2単位 ※必修の教養科目以外から選択		12単位以上	
合計 40単位 (A)		最低 10単位 (B)								62単位-(A)-(B)	

- ◎ 「教養科目」区分の科目については、卒業までに最低6単位修得することを卒業要件とする。  
(必修の教養科目についてもこの6単位の中に含む。「芸術特別研究Ⅰ・Ⅱ」「基礎ゼミ」)
- ◎ 選択必修科目のうち、最低修得単位数を超えた分については選択科目の単位となる。
- ◎ 本学音楽学部への編入学要件については、78ページ以降を参照すること。
- ◎ 資格課程の履修については、85ページ以降を参照すること。

**【基本的な注意事項(右表参照)】**

- ・ ○数字が付記してある科目は、同じ科目名称同士①②の順番で履修する。  
例)「創作実技①」→「創作実技②」  
※①②を、同時に履修することは認めない。
- ・ 2年生は2年生の欄に記載されている科目の他に、1年生の科目も履修ができる。
- ・ 単位数に※印が付いている科目は、半期(前期または後期)のみで履修が終わる科目。
- ・ 「副科実技」科目は、2年間で4科目(8単位)まで履修可。
- ・ 「注意」欄に☆印が付いている科目は、社会福祉主事任用資格に関わる科目。(107ページ参照)

**【右表中の注意事項】**

- A 「ミュージックセオリー」の同時履修は認めない。履修レベル決定後翌年度以降にそのレベルを下げて履修することはできない。
- B 各資格課程登録者で、これらの科目が必修の者のみ履修可。また、履修する場合、教養科目としても同時に履修することになり、卒業要件単位にも含む。  
(※卒業要件単位に含む=年間履修上限単位数に含む)
- ・「教育心理学」=教職課程必修
  - ・「生涯学習概論Ⅰ」「図書館概論」=司書課程必修



音楽科 デジタルミュージックコース（必修科目、選択必修科目） 平成30(2018)年度入学

		1年			2年			
		科目名	単位	注意	科目名	単位	注意	
必修	専門科目	創作実技①	6		創作実技②	6		
		ピアノⅡ①	2		ピアノⅡ②	2		
合唱①		2		デジタルミュージック概論	2※			
ポピュラー作曲・編曲法①		4		映像の音楽	2※			
コンピュータ音楽概論		4						
録音制作Ⅰ		2※						
西洋音楽史Ⅰ		4						
	教養科目	芸術特別研究Ⅰ	1		芸術特別研究Ⅱ	1		
基礎ゼミ		2						
選択必修	専門科目	ミュージックセオリー(初級)	2	A				
		ミュージックセオリー(中級)	2	A				
		ミュージックセオリー(上級)	2	A				
		基本ソルフェージュ①	2		基本ソルフェージュ②	2		
		聴音・視唱ソルフェージュ①	2		聴音・視唱ソルフェージュ②	2		
		鍵盤ソルフェージュ①	2		鍵盤ソルフェージュ②	2		
		総合ソルフェージュ①	2		総合ソルフェージュ②	2		
	ソルフェージュ科目についての詳細は14ページに掲載。必ず参照の上、履修すること。							
	外国語科目	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	2		初級イタリア語	4		
		初級英語Ⅰ～Ⅴ	2		中級イタリア語Ⅰ	2		
		中級英語Ⅰ～Ⅴ	2		中級イタリア語Ⅱ	2		
		上級英語Ⅰ～Ⅴ	2		上級イタリア語	2		
		基礎イタリア語	4		初級ドイツ語	4		
		基礎ドイツ語	4		中級ドイツ語Ⅰ	2		
基礎フランス語		4		中級ドイツ語Ⅱ	2			
				上級ドイツ語	2			
				初級フランス語	4			
				中級フランス語	2			
				上級フランス語	2			
				外国語科目についての詳細は16ページに掲載。必ず参照の上、履修すること。				
教養科目	演奏とからだⅠ	2※		キャリアデザイン	1※			
	演奏とからだⅡ	2※		音楽活動研究②	1			
	哲学	2※		☆ 選択必修の教養科目の中から、最低2単位修得すること。				
	文学	2※						
	心理学	2※						
	心の健康	2※						
	日本文化史Ⅰ	2※						
	日本文化史Ⅱ	2※						
	西洋文化史Ⅰ	2※						
	西洋文化史Ⅱ	2※						
	美術史Ⅰ	2※						
	美術史Ⅱ	2※						
	日本国憲法	2※		☆				
	生活と経済	2※						
	経済学	2※						
	情報機器演習(基礎)	2※						
	情報機器演習(応用)Ⅰ	2※						
	情報機器演習(応用)Ⅱ	2※						
	体育理論	2※						
	体育実技	1※						
	音響学	2※						
	ボランティア論	2※						
	音楽活動研究①	1		日本語科目については、18ページを見ること。				
教育心理学	2※	B						
生涯学習概論Ⅰ	2※	B						
図書館概論	2※	B						
博物館概論	2※	B						

◎選択科目については次ページに掲載

音楽科 デジタルミュージックコース（選択科目）

平成30(2018)年度入学

		1年			2年		
		科目名	単位	注意	科目名	単位	注意
選択	専門科目	器楽Ⅱ①	2	A	器楽Ⅱ②	2	A
		声乐Ⅱ①	2		声乐Ⅱ②	2	
		電子オルガンⅡ①	2		電子オルガンⅡ②	2	
		オルガンⅡ①	2		オルガンⅡ②	2	
		ポピュラー・ジャズピアノⅡ①	2		ポピュラー・ジャズピアノⅡ②	2	
		アートマネジメント概論Ⅰ	2※		PA演習	2※	
		アートマネジメント概論Ⅱ	2※		オーケストレーション	4	
		ジャズの歴史と作品	2※		オペラの歴史と作品	4	
		パフォーマンス①	1	B	サウンドデザイン演習	2	
		ポピュラー音楽概論	4		ステージマネージャー演習	1※	
		ポリフォニー演習	2	C	パフォーマンス②	1	B
		ミュージックビジネスと社会	2※		ポピュラー作曲・編曲法②	4	
		ライブビジネスと社会	2※		ミュージカルの歴史と作品	2※	
		演劇の歴史と作品	2※		医学一般	2※	☆
		音楽教育メソッド実践Ⅰ	2		音楽教育メソッド実践Ⅱ	2	
		音楽療法概説	2※		音楽心理学	2※	
		海外研修Ⅱ	3		音楽療法各論Ⅰ	2※	
		海外研修Ⅳ	3		音楽療法各論Ⅱ	2※	
		海外研修Ⅴ	3		介護概論	2※	☆
		鍵盤演奏表現Ⅰ	2		合唱②	2	
		鍵盤演奏表現Ⅱ	2		合奏Ⅱ	2	
		作曲家・作品研究	4		看護学演習	2※	
		指揮法Ⅰ	2		器楽の歴史と作品	4	
		障がい児教育概論	2※		経営学Ⅰ	2※	
		西洋音楽史Ⅱ	2※		芸術関係法規	2※	
		日本音楽概論Ⅰ	2※		芸術文化と社会Ⅱ	2※	
		日本音楽概論Ⅱ	2※		鍵盤演奏表現Ⅲ	2	
		日本古典芸能Ⅰ	1※		鍵盤演奏表現Ⅳ	2	
		日本古典芸能Ⅱ	1※	D	社会福祉概論	2※	☆
		日本伝統音楽演習Ⅰ	1※	E	対位法	2	CF
		日本伝統音楽演習Ⅱ	1※	E	日本古典芸能Ⅲ	1※	
		発達心理学	2※		舞踊の歴史と作品	4	
		伴奏法①	2		民族音楽概論Ⅰ	2※	
		舞台スタッフ論①	2※		民族音楽概論Ⅱ	2※	
		舞台スタッフ論②	2※		録音制作Ⅲ	2※	
簿記・会計入門	4						
録音制作Ⅱ	2※						

【上表中の注意事項】

- A 「器楽Ⅱ」の履修にあたっては、20ページの注意事項を確認すること。
- B 指定された者のみ履修可。シラバスを参照のこと。
- C 「ポリフォニー演習」と「対位法」の同時履修は認めない。
- D 「日本古典芸能Ⅰ」の単位を修得した者のみ履修可。
- E IとⅡの両方を同学期同時限に履修すること。（\*履修人数制限あり）
- F 「ポリフォニー演習」の単位を修得した者のみ履修可。

## 音楽科 デジタルミュージックコース（教職課程関係科目）

【教職課程「教科に関する科目」「教科または教職に関する科目」「66条の6に定められた科目」】

教職課程履修者はコースに開講されている科目を以下の通り修得する必要がある。  
 教職課程科目履修の詳細は、87ページ以降に記載しているのものでこちらも必ず参照すること。

教科に関する科目	教職課程区分	免許状取得に必要な科目		
		科目名	単位	備考
ソルフェージュ	必修	聴音・視唱ソルフェージュ①	2	ソルフェージュ者試験で「基本ソルフェージュ①」を指定された学生のみ必修。その場合は「聴音・視唱ソルフェージュ①」の指定クラスも同時に修得する必要がある。
		基本ソルフェージュ①	2	
声乐（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）		声乐Ⅱ①	2	
		合唱①	2	
		日本伝統音楽演習Ⅰ	1	
		器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）	ピアノⅡ①	
合奏Ⅱ			2	
伴奏法①			2	
指揮法		日本伝統音楽演習Ⅱ	1	
		指揮法Ⅰ	2	
音楽理論、作曲法（編曲法を含む。）及び音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）	必修	西洋音楽史Ⅰ	4	3科目のうち1科目選択必修
		日本音楽概論Ⅰ	2	
		民族音楽概論Ⅰ	2	
		創作実技①	6	
	選択必修	ミュージックセオリー（初級）	2	
		ミュージックセオリー（中級）	2	
		ミュージックセオリー（上級）	2	
教科または教職に関する科目	必修	西洋音楽史Ⅱ	2	★修得することが望ましい  左記7科目のうち4単位以上選択必修
	選択必修	★鍵盤ソルフェージュ①	2	
		鍵盤ソルフェージュ②	2	
		聴音・視唱ソルフェージュ②	2	
		声乐Ⅱ②	2	
		ピアノⅡ②	2	
		日本音楽概論Ⅱ	2	
		民族音楽概論Ⅱ	2	
教育職員免許法施行規則第66条の6に定められた科目	必修	日本国憲法	2	3科目のうち1科目選択必修
		体育理論	2	
		体育実技	1	
	選択必修	情報機器演習（基礎）	2	
		情報機器演習（応用Ⅰ）	2	
		情報機器演習（応用Ⅱ）	2	
		外国語	2	
			1科目選択必修 英語・伊語・独語・仏語の種別は問わない	

コース	<b>ポピュラー音楽コース</b>
獲得できる専門的能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポピュラー音楽のさまざまなジャンルの演奏ができる。</li> <li>・修得したテクニックや演奏能力を実際の音楽現場で生かすことができる。</li> <li>・各専攻楽器の演奏技術を磨き、音楽基礎力と個性を生かした自由な音楽表現ができる。</li> <li>・アーティスト、ミュージシャンとして幅広く活躍できる音楽表現ができる。</li> </ul>

**【卒業要件単位数】**

必修		選択必修						選択	
		専門科目		外国語科目(英語)		教養科目			
1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年
17単位	12単位	最低 4単位		最低 4単位		最低 2単位 ※必修の教養科目 以外から選択		23単位以上	
合計 29単位 (A)		最低 10単位 (B)						62単位-(A)-(B)	

- ◎ 「教養科目」区分の科目については、卒業までに最低6単位修得することを卒業要件とする。  
(必修の教養科目についてもこの6単位の中に含む。「芸術特別研究Ⅰ・Ⅱ」「基礎ゼミ」)
- ◎ 選択必修科目のうち、最低修得単位数を超えた分については選択科目の単位となる。
- ◎ 本学音楽学部への編入学要件については、78ページ以降を参照すること。
- ◎ 資格課程の履修については、85ページ以降を参照すること。

**【基本的な注意事項(右表参照)】**

- ・ ○数字が付記してある科目は、同じ科目名称同士①②の順番で履修する。  
例)「ポピュラー実技Ⅰ①」→「ポピュラー実技Ⅰ②」 ※①②を、同時に履修することは認めない。
- ・ 2年生は2年生の欄に記載されている科目の他に、1年生の科目も履修ができる。
- ・ 単位数に※印が付いている科目は、半期(前期または後期)のみで履修が終わる科目。
- ・ 単位数に※※印が付いている科目は単位数に相当するコマ数を集中的に実施(半期・集中科目)
- ・ 「副科実技」科目は、2年間で4科目(8単位)まで履修可。
- ・ 「注意」欄に☆印が付いている科目は、社会福祉主事任用資格に関わる科目。(107ページ参照)
- ・ ポピュラー実技Ⅰおよびポピュラー演奏法について履修できる楽器は次のとおり
  - ポピュラーピアノで受験＝ポピュラーピアノ
  - ギターで受験＝ギター
  - ベースで受験＝ベース
  - ドラムスで受験＝ドラムス
  - サクソフォンで受験＝サクソフォン
  - トランペットで受験＝トランペット
  - トロンボーンで受験＝トロンボーン
  - ポピュラーヴォーカルで受験＝ポピュラーヴォーカル

**【ポピュラー・ジャズピアノⅡ、ポピュラーヴォーカルⅡについて】**

- ・ ポピュラーピアノが主専攻の者は「ポピュラー・ジャズピアノⅡ」履修不可。
- ・ ヴォーカルが主専攻の者は「ポピュラーヴォーカルⅡ」履修不可。

**【インストゥルメンツⅡについて】**

- ・ 履修できる楽器：サクソフォン/トランペット/トロンボーン/ギター/ベース/ドラムス/パーカッション/ウッドベース
- ・ 「ポピュラー実技Ⅰ①～②」と「インストゥルメンツⅡ①～②」で楽器の重複はできない。
- ・ 履修人数が3人に満たない場合は開講しないことがある。
- ・ 1年次に①で履修した楽器を2年次に変更することはできない。

**【右表中の注意事項】**

- A 「コードプログレッション」はプレイメントテストの結果によりクラス分けを行い、「コードプログレッション(ベーシック)」もしくは「コードプログレッション(アドバンス)」の指定されたクラスとなる。
- B 各資格課程登録者で、これらの科目が必修の者のみ履修可。また、履修する場合、教養科目としても同時に履修することになり、卒業要件単位にも含む。  
(※卒業要件単位に含む＝年間履修上限単位数に含む)
  - ・ 「教育心理学」=教職課程必修
  - ・ 「生涯学習概論Ⅰ」「図書館概論」=司書課程必修

音楽科 ポピュラー音楽コース (必修・選択必修・選択科目)

平成30(2018)年度入学

		1年			2年		
		科目名	単位	注意	科目名	単位	注意
必修	専門科目	ポピュラー実技 I ①	6		ポピュラー実技 I ②	6	
		ポピュラーアンサンブル①	2		ポピュラーアンサンブル②	2	
		ポピュラー音楽概論	4		卒業ライブ	1	
		ポピュラー演奏法①	2		ポピュラー演奏法②	2	
教養科目	芸術特別研究 I	1		芸術特別研究 II	1		
	基礎ゼミ	2					
選択必修	専門科目	コードプログレッション(ベーシック)	4	A			
		コードプログレッション(アドバンス)	4	A			
	外国語科目	基礎英語 I・II	2		外国語科目についての詳細は16ページに掲載。必ず参照の上、履修すること。		
		初級英語 I～V	2				
		中級英語 I～V	2				
		上級英語 I～V	2				
	教養科目	演奏とからだ I	2※	☆	キャリアデザイン	1※	選択必修の教養科目の中から、最低2単位修得すること。
		演奏とからだ II	2※		音楽活動研究②	1	
		哲学	2※				
		文学	2※				
		心理学	2※				
		心の健康	2※				
		日本文化史 I	2※				
		日本文化史 II	2※				
		西洋文化史 I	2※				
		西洋文化史 II	2※				
		美術史 I	2※				
		美術史 II	2※				
		日本国憲法	2※				
生活と経済		2※					
経済学		2※	☆				
情報機器演習(基礎)	2※						
情報機器演習(応用) I	2※						
情報機器演習(応用) II	2※						
体育理論	2※						
体育実技	1※						
音響学	2※						
ボランティア論	2※						
音楽活動研究①	1						
教育心理学	2※	B	日本語科目については、18ページを見ること。				
生涯学習概論 I	2※	B					
図書館概論	2※	B					
博物館概論	2※	B					
選択	専門科目	基本ソルフェージュ①	2		基本ソルフェージュ②	2	
		聴音・視唱ソルフェージュ①	2		聴音・視唱ソルフェージュ②	2	
		鍵盤ソルフェージュ①	2		鍵盤ソルフェージュ②	2	
		総合ソルフェージュ①	2		総合ソルフェージュ②	2	
	ソルフェージュ科目についての詳細は14ページに掲載。必ず参照の上、履修すること。						
外国語科目	基礎イタリア語	4		初級イタリア語	4		
	基礎ドイツ語	4		中級イタリア語 I	2		
	基礎フランス語	4		中級イタリア語 II	2		
				上級イタリア語	2		
				初級ドイツ語	4		
				中級ドイツ語 I	2		
				中級ドイツ語 II	2		
				上級ドイツ語	2		
				初級フランス語	4		
			中級フランス語	2			
			上級フランス語	2			

音楽科 ポピュラー音楽コース（選択科目）

平成30(2018)年度入学

		1年			2年		
		科目名	単位	注意	科目名	単位	注意
専 門 科 目  選 択		ポピュラー・ジャズピアノⅡ①	2		ポピュラー・ジャズピアノⅡ②	2	
		インストゥルメンツⅡ①	2	A	インストゥルメンツⅡ②	2	A
		ポピュラーヴォーカルⅡ①	2		ポピュラーヴォーカルⅡ②	2	
		ピアノⅡ①	2	B	ピアノⅡ②	2	
		声乐Ⅱ①	2		声乐Ⅱ②	2	
		器楽Ⅱ①	2	A	器楽Ⅱ②	2	A
		電子オルガンⅡ①	2		電子オルガンⅡ②	2	
		オルガンⅡ①	2		オルガンⅡ②	2	
		アートマネジメント概論Ⅰ	2※		オペラの歴史と作品	4	
		アートマネジメント概論Ⅱ	2※		サウンドクリエイト②	4	
		イヤートレーニング	2※		スタジオレコーディング	1※	
		サウンドクリエイト①	4		ステージマネージャー演習	1※	
		ジャズの歴史と作品	2※		ソングライティング演習②	2	
		ソングライティング演習①	2		ハーモニー演習②	2	
		ダンス	2	C	パフォーマンス②	1	E
		ハーモニー演習①	2	D	ポピュラー作曲・編曲法①	4	H
		パフォーマンス①	1	E	ミュージカルの歴史と作品	2※	
		ミュージックビジネスと社会	2※		ライブ実習Ⅰ	1※※	
		ライブビジネスと社会	2※		ライブ実習Ⅱ	1※※	
		リズムトレーニング	1※		医学一般	2※	☆
		演劇の歴史と作品	2※		音楽教育メソッド実践Ⅱ	2	
		音楽基礎演習	2	D	音楽心理学	2※	
		音楽教育メソッド実践Ⅰ	2		音楽療法各論Ⅰ	2※	
		音楽療法概説	2※		音楽療法各論Ⅱ	2※	
		海外研修Ⅱ	3		介護概論	2※	☆
		海外研修Ⅳ	3		合奏Ⅱ	2	
		海外研修Ⅴ	3		看護学演習	2※	
		合唱①	2		経営学Ⅰ	2※	
		鍵盤演奏表現Ⅰ	2	B	芸術関係法規	2※	
		鍵盤演奏表現Ⅱ	2		芸術文化と社会Ⅱ	2※	
		作曲家・作品研究	4		鍵盤演奏表現Ⅲ	2	
		指揮法Ⅰ	2		鍵盤演奏表現Ⅳ	2	
		障がい児教育概論	2※		作曲・編曲法	2	
		西洋音楽史Ⅰ	4		社会福祉概論	2※	☆
		西洋音楽史Ⅱ	2※		日本古典芸能Ⅲ	1※	
		日本音楽概論Ⅰ	2※		舞踊の歴史と作品	4	
		日本音楽概論Ⅱ	2※		民族音楽概論Ⅰ	2※	
		日本古典芸能Ⅰ	1※		民族音楽概論Ⅱ	2※	
		日本古典芸能Ⅱ	1※	F			
		日本伝統音楽演習Ⅰ	1※	G			
		日本伝統音楽演習Ⅱ	1※	G			
		発達心理学	2※				
		伴奏法①	2				
		舞台スタッフ論①	2※				
		舞台スタッフ論②	2※				
	簿記・会計入門	4					

【上表中の注意事項】

- A 「インストゥルメンツⅡ」・「器楽Ⅱ」の履修にあたっては、20ページの注意事項を確認すること。
- B 「ピアノⅡ①」の履修を希望する学生は、レッスン希望アンケートの結果により「鍵盤演奏表現Ⅰ」を履修しなければならないことがある。この場合は「ピアノⅡ①」は2年次に履修可。
- C ヴォーカルを主専攻とする者は必修。
- D 「ハーモニー演習①」の履修を希望する者は、参考試験結果により「音楽基礎演習」を履修しなければならないことがある。
- E 指定された者のみ履修可。シラバスを参照のこと。
- F 「日本古典芸能Ⅰ」の単位を修得した者のみ履修可
- G IとⅡの両方を同学期同時限に履修すること。（\*履修人数制限あり）
- H 「ポピュラー作曲・編曲法①」を履修するためには、「コードプログレッション(アドバンス)」の単位を修得していなければならない。

# 音楽科 ポピュラー音楽コース（教職課程関係科目）

【教職課程「教科に関する科目」「教科または教職に関する科目」「66条の6に定められた科目」】

教職課程履修者はコースに開講されている科目を以下の通り修得する必要がある。  
 教職課程科目履修の詳細は、87ページ以降に記載しているのでそちらも必ず参照すること。

教科に関する科目	教職課程区分	免許状取得に必要な科目			
		科目名	単位	備考	
ソルフェージュ	必修	聴音・視唱ソルフェージュ①	2		
		基本ソルフェージュ①	2	ソルフェージュ斉試験で「基本ソルフェージュ①」を指定された学生のみ必修。その場合は「聴音・視唱ソルフェージュ①」の指定クラスも同時に修得する必要がある。	
声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）		声楽Ⅱ①	4		
		合唱①	2		
		日本伝統音楽演習Ⅰ	1		
器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		ピアノⅡ①	2		
		合奏Ⅱ	2		
		伴奏法①	2		
		日本伝統音楽演習Ⅱ	1		
指揮法		指揮法Ⅰ	2		
	音楽理論、作曲法（編曲法を含む。）及び音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）	西洋音楽史Ⅰ	4		
日本音楽概論Ⅰ		2			
民族音楽概論Ⅰ		2			
作曲・編曲法		2			
選択必修		ハーモニー演習①	2	2科目のうち1科目選択必修	
音楽基礎演習		2			
教科または教職に関する科目		必修	西洋音楽史Ⅱ	2	
		選択必修	★鍵盤ソルフェージュ①	2	★修得することが望ましい  左記8科目のうち4単位以上選択必修
	鍵盤ソルフェージュ②		2		
	聴音・視唱ソルフェージュ②		2		
	声楽Ⅱ②		4		
	ピアノⅡ②		2		
	ハーモニー演習②		2		
	日本音楽概論Ⅱ		2		
	民族音楽概論Ⅱ		2		
	教育職員免許法施行規則第66条の6に定められた科目	必修	日本国憲法	2	
		体育理論	2		
		体育実技	1		
選択必修		情報機器演習（基礎）	2	3科目のうち1科目選択必修	
		情報機器演習（応用Ⅰ）	2		
		情報機器演習（応用Ⅱ）	2		
		外国語	2		1科目選択必修 英語・伊語・独語・仏語の種別は問わない

コース	<b>ジャズコース</b>
<b>獲得できる 専門的能力</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャズのさまざまなスタイルの演奏・歌唱ができる。</li> <li>・修得したテクニックや演奏・歌唱能力を実際の音楽現場で生かすことができる。</li> <li>・各専攻楽器の演奏・歌唱技術を磨き、音楽基礎力と個性を生かした自由な音楽表現ができる。</li> <li>・アーティスト、ミュージシャンとして幅広く活躍できる音楽表現ができる。</li> </ul>

**【卒業要件単位数】**

必修		選択必修						選択	
		専門科目		外国語科目(英語)		教養科目			
1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年
17単位	14単位	最低 4単位		最低 4単位		最低 2単位 ※必修の教養科目 以外から選択		21単位以上	
合計 31単位 (A)		最低 10単位 (B)						62単位-(A)-(B)	

- ◎ 「教養科目」区分の科目については、卒業までに最低6単位修得することを卒業要件とする。  
(必修の教養科目についてもこの6単位の中に含む。「芸術特別研究Ⅰ・Ⅱ」「基礎ゼミ」)
- ◎ 選択必修科目のうち、最低修得単位数を超えた分については選択科目の単位となる。
- ◎ 本学音楽学部への編入学要件については、78ページ以降を参照すること。
- ◎ 資格課程の履修については、85ページ以降を参照すること。

**【基本的な注意事項(右表参照)】**

- ・ ○数字が付記してある科目は、同じ科目名称同士①②の順番で履修する。  
例)「ジャズ実技Ⅰ①」→「ジャズ実技Ⅰ②」 ①②を、同時に履修することは認めない。
- ・ 2年生は2年生の欄に記載されている科目の他に、1年生の科目も履修ができる。
- ・ 「副科実技」科目は、2年間で4科目(8単位)まで履修可。
- ・ 「注意」欄に☆印がついている科目は、社会福祉主事任用資格に関わる科目。(107ページ参照)
- ・ 単位数に※印が付いている科目は、半期(前期または後期)のみで履修が終わる科目。
- ・ 単位数に※※印が付いている科目は単位数に相当するコマ数を集中的に実施(半期・集中科目)
- ・ ジャズ実技Ⅰおよびジャズ演奏法について履修できる楽器は次のとおり
  - ジャズピアノで受験＝ジャズピアノ                      ●ギターで受験＝ギター
  - ベースで受験＝ベース                                      ●ドラムスで受験＝ドラムス
  - サクソフォーンで受験＝サクソフォーン              ●トランペットで受験＝トランペット
  - トロンボーンで受験＝トロンボーン                    ●ジャズヴォーカルで受験＝ジャズヴォーカル

**【ポピュラー・ジャズピアノⅡ、ポピュラーヴォーカルⅡについて】**

- ・ ジャズピアノが主専攻の者は「ポピュラー・ジャズピアノⅡ」履修不可。
- ・ ジャズヴォーカルが主専攻の者は「ポピュラーヴォーカルⅡ」履修不可。

**【インストゥルメンツⅡについて】**

- ・ 履修できる楽器：サクソフォーン/トランペット/トロンボーン/ギター/ベース/ドラムス/パーカッション/ウッドベース
- ・ 「ジャズ実技Ⅰ①～②」と「インストゥルメンツⅡ①～②」で楽器の重複はできない。
- ・ 履修人数が3人に満たない場合は開講しないことがある。
- ・ 1年次に①で履修した楽器を2年次に変更することはできない。

**【右表中の注意事項】**

- A 「コードプログレッション」はプレイメントテストの結果によりクラス分けを行い、「コードプログレッション(ベーシック)」もしくは「コードプログレッション(アドバンス)」の指定されたクラスとなる。
- B 各資格課程登録者で、これらの科目が必修の者のみ履修可。また、履修する場合、教養科目としても同時に履修することになり、卒業要件単位にも含む。  
(※卒業要件単位に含む＝年間履修上限単位数に含む)
  - ・「教育心理学」=教職課程必修
  - ・「生涯学習概論Ⅰ」「図書館概論」=司書課程必修





音楽科 ジャズコース（選択科目）

平成30(2018)年度入学

		1年			2年		
		科目名	単位	注意	科目名	単位	注意
専 門 科 目  選 択		ポピュラー・ジャズピアノⅡ①	2		ポピュラー・ジャズピアノⅡ②	2	
		インストゥルメンツⅡ①	2	A	インストゥルメンツⅡ②	2	A
		ポピュラーヴォーカルⅡ①	2		ポピュラーヴォーカルⅡ②	2	
		ピアノⅡ①	2	B	ピアノⅡ②	2	
		声楽Ⅱ①	2		声楽Ⅱ②	2	
		器楽Ⅱ①	2	A	器楽Ⅱ②	2	A
		電子オルガンⅡ①	2		電子オルガンⅡ②	2	
		オルガンⅡ①	2		オルガンⅡ②	2	
		アートマネジメント概論Ⅰ	2※		オペラの歴史と作品	4	
		アートマネジメント概論Ⅱ	2※		サウンドクリエイト②	4	
		イヤートレーニング	2※		ジャズコンポジション	4	H
		サウンドクリエイト①	4		スタジオレコーディング	1※	
		ソングライティング演習①	2		ステージマネージャー演習	1※	
		ダンス	2	C	ソングライティング演習②	2	
		ハーモニー演習①	2	D	ハーモニー演習②	2	
		パフォーマンス①	1	E	パフォーマンス②	1	E
		ポピュラー音楽概論	4		ミュージカルの歴史と作品	2※	
		ミュージックビジネスと社会	2※		ライブ実習Ⅰ	1※※	
		ライブビジネスと社会	2※		ライブ実習Ⅱ	1※※	
		リズムトレーニング	1※		医学一般	2※	☆
		演劇の歴史と作品	2※		音楽教育メソッド実践Ⅱ	2	
		音楽基礎演習	2	D	音楽心理学	2※	
		音楽教育メソッド実践Ⅰ	2		音楽療法各論Ⅰ	2※	
		音楽療法概説	2※		音楽療法各論Ⅱ	2※	
		海外研修Ⅱ	3		介護概論	2※	☆
		海外研修Ⅳ	3		合奏Ⅱ	2	
		海外研修Ⅴ	3		看護学演習	2※	
		合唱①	2		経営学Ⅰ	2※	
		鍵盤演奏表現Ⅰ	2	B	芸術関係法規	2※	
		鍵盤演奏表現Ⅱ	2		芸術文化と社会Ⅱ	2※	
		作曲家・作品研究	4		鍵盤演奏表現Ⅲ	2	
		指揮法Ⅰ	2		鍵盤演奏表現Ⅳ	2	
		障がい児教育概論	2※		作曲・編曲法	2	
		西洋音楽史Ⅰ	4		社会福祉概論	2※	☆
		西洋音楽史Ⅱ	2※		日本古典芸能Ⅲ	1※	
		日本音楽概論Ⅰ	2※		舞踊の歴史と作品	4	
	日本音楽概論Ⅱ	2※		民族音楽概論Ⅰ	2※		
	日本古典芸能Ⅰ	1※		民族音楽概論Ⅱ	2※		
	日本古典芸能Ⅱ	1※	F				
	日本伝統音楽演習Ⅰ	1※	G				
	日本伝統音楽演習Ⅱ	1※	G				
	発達心理学	2※					
	伴奏法①	2					
	舞台スタッフ論①	2※					
	舞台スタッフ論②	2※					
	簿記・会計入門	4					

【上表中の注意事項】

- A 「インストゥルメンツⅡ」・「器楽Ⅱ」の履修にあたっては、20ページの注意事項を確認すること。
- B 「ピアノⅡ①」の履修を希望する学生は、レッスン希望アンケートの結果により「鍵盤演奏表現Ⅰ」を履修しなければならないことがある。この場合は「ピアノⅡ①」は2年次に履修可。
- C ヴォーカルを主専攻とする者は必修。
- D 「ハーモニー演習①」の履修を希望する者は、参考試験結果により「音楽基礎演習」を履修しなければならないことがある。
- E 指定された者のみ履修可。シラバスを参照のこと。
- F 「日本古典芸能Ⅰ」の単位を修得した者のみ履修可
- G IとⅡの両方を同学期同時限に履修すること。（\*履修人数制限あり）
- H 「ジャズコンポジション」を履修するためには、「コードプログレッション(アドバンス)」の単位を修得していなければならない。

## 音楽科 ジャズコース（教職課程関係科目）

【教職課程「教科に関する科目」「教科または教職に関する科目」「66条の6に定められた科目」】

教職課程履修者はコースに開講されている科目を以下の通り修得する必要がある。  
教職課程科目履修の詳細は、87ページ以降に記載しているのでそちらも必ず参照すること。

教科に関する科目	教職課程区分	免許状取得に必要な科目		
		科目名	単位	備考
ソルフェージュ	必修	聴音・視唱ソルフェージュ①	2	
		基本ソルフェージュ①	2	ソルフェージュ斉試験で「基本ソルフェージュ①」を指定された学生のみ必修。その場合は「聴音・視唱ソルフェージュ①」の指定クラスも同時に修得する必要がある。
声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）		声楽Ⅱ①	4	
		合唱①	2	
		日本伝統音楽演習Ⅰ	1	
器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		ピアノⅡ①	2	
		合奏Ⅱ	2	
		伴奏法①	2	
		日本伝統音楽演習Ⅱ	1	
指揮法			指揮法Ⅰ	2
音楽理論、作曲法（編曲法を含む。）及び音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）		西洋音楽史Ⅰ	4	
		日本音楽概論Ⅰ	2	
		民族音楽概論Ⅰ	2	
		作曲・編曲法	2	
	選択必修	ハーモニー演習①	2	2科目のうち1科目選択必修
		音楽基礎演習	2	
教科または教職に関する科目	必修	西洋音楽史Ⅱ	2	
	選択必修	★鍵盤ソルフェージュ①	2	★修得することが望ましい  左記8科目のうち4単位以上選択必修
		鍵盤ソルフェージュ②	2	
		聴音・視唱ソルフェージュ②	2	
		声楽Ⅱ②	4	
		ピアノⅡ②	2	
		ハーモニー演習②	2	
		日本音楽概論Ⅱ	2	
民族音楽概論Ⅱ	2			
教育職員免許法施行規則第66条の6に定められた科目	必修	日本国憲法	2	
		体育理論	2	
		体育実技	1	
	選択必修	情報機器演習（基礎）	2	3科目のうち1科目選択必修
		情報機器演習（応用Ⅰ）	2	
		情報機器演習（応用Ⅱ）	2	
		外国語	2	
		1科目選択必修 英語・伊語・独語・仏語の種別は問わない		

コース	<b>音楽と社会コース</b>
獲得できる専門的能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い音楽的体験を通して、演奏もしくは論文等における自らの表現力や対話能力を向上させることができる。</li> <li>・身に付けた音楽芸術に対する知識・技術を、自身の創造性と人間性の糧とし、精神的に豊かな社会生活を送ることができる。</li> </ul>

**【卒業要件単位数】**

必修		選択	
1年	2年	1年	2年
20単位	12単位	30単位以上	
合計 32単位 (A)		62単位-(A)	

- ◎ 本学音楽学部への編入学要件については、78ページ以降を参照すること。
- ◎ 資格課程の履修については、85ページ以降を参照すること。

**【基本的な注意事項(右表参照)】**

- ・ ○数字が付記してある科目は、同じ科目名称同士①②の順番で履修する。  
例)「ピアノ①」→「ピアノ②」  
①②を同時に履修することは認めない。
- ・ 2年生は2年生の欄に記載されている科目の他に、1年生の科目も履修ができる。
- ・ 「副科実技」科目は、2年間で4科目(8単位)まで履修可。
- ・ 「注意」欄に☆印が付いている科目は、社会福祉主事任用資格に関わる科目。(107ページ参照)
- ・ 単位数に※印が付いている科目は、半期(前期または後期)のみで履修が終わる科目。

**【音楽と社会コース特有の注意事項】**

- ・ 教職課程は履修不可。
- ・ 主専攻実技と同じ楽器等の副科実技科目は履修できない。(「ピアノ①」と「ピアノⅡ①」など)
- ・ 「器楽Ⅱ」については2年次に楽器の変更ができる。
- ・ 「インストゥルメンツⅡ」で専攻できる楽器はサクソフォーン、トランペット、トロンボーン、ギター、ベース、ドラムスとし、2年次に楽器の変更はできない。
- ・ 「ポピュラー・ジャズピアノⅡ」、「インストゥルメンツⅡ」、「ポピュラーヴォーカルⅡ」を同時に2科目以上履修することはできない。

**【右表中の注意事項】**

A 「インストゥルメンツⅡ」・「器楽Ⅱ」の履修にあたっては、上記注意事項と20ページの表も確認すること。

音楽科 音楽と社会コース（必修科目、選択科目）

平成30(2018)年度入学

				1年			2年		
				科目名	単位	注意	科目名	単位	注意
必修	専門 実技	ピアノ主専攻	ピアノ①	いずれか 1科目を 主専攻として 2年間履修	4		ピアノ②	4	
		器楽主専攻	器楽①		4		器楽②	4	
		電子オルガン主専攻	電子オルガン①		4		電子オルガン②	4	
		声楽主専攻	声楽①		4		声楽②	4	
		専門科目	音楽評論概説	4		音楽と社会特論	4		
			音楽と社会	2※		卒業研究	2		
			楽器研究	2※					
			作曲家・作品研究	4					
		教養科目	芸術特別研究Ⅰ	1		芸術特別研究Ⅱ	1		
			芸特応用研究Ⅰ	1		芸特応用研究Ⅱ	1		
		基礎ゼミ	2						
選択	専門 科目	実技・ 演習科目	ピアノⅡ①	2		ピアノⅡ②	2		
			器楽Ⅱ①	2	A	器楽Ⅱ②	2	A	
			電子オルガンⅡ①	2		電子オルガンⅡ②	2		
			オルガンⅡ①	2		オルガンⅡ②	2		
			声楽Ⅱ①	2		声楽Ⅱ②	2		
			ポピュラー・ジャズピアノⅡ①	2		ポピュラー・ジャズピアノⅡ②	2		
			インストゥルメンツⅡ①	2	A	インストゥルメンツⅡ②	2	A	
			ポピュラーヴォーカルⅡ①	2		ポピュラーヴォーカルⅡ②	2		
			作曲Ⅱ①	2		作曲Ⅱ②	2		
			鍵盤演奏表現Ⅰ	2					
	ソル フェ ージュ 科目	基本ソルフェージュ①	2		基本ソルフェージュ②	2			
		聴音・視唱ソルフェージュ①	2		聴音・視唱ソルフェージュ②	2			
		鍵盤ソルフェージュ①	2		鍵盤ソルフェージュ②	2			
		総合ソルフェージュ①	2		総合ソルフェージュ②	2			
		ソルフェージュ科目についての詳細は14ページに掲載。 必ず参照の上、履修すること。							
外国 語 科目	基礎英語Ⅰ・Ⅱ	2		初級イタリア語	4				
	初級英語Ⅰ～Ⅴ	2		中級イタリア語Ⅰ	2				
	中級英語Ⅰ～Ⅴ	2		中級イタリア語Ⅱ	2				
	上級英語Ⅰ～Ⅴ	2		上級イタリア語	2				
	基礎イタリア語	4		初級ドイツ語	4				
	基礎ドイツ語	4		中級ドイツ語Ⅰ	2				
	基礎フランス語	4		中級ドイツ語Ⅱ	2				
				上級ドイツ語	2				
	外国語科目についての詳細は16ページ に掲載。必ず参照の上、履修すること。								
				初級フランス語	4				
			中級フランス語	2					
			上級フランス語	2					

◎その他専門科目、教養科目については次ページ以降に掲載

音楽科 音楽と社会コース（選択科目）

平成30(2018)年度入学

		1年			2年		
		科目名	単位	注意	科目名	単位	注意
選択	専門科目	アートマネジメント概論Ⅰ	2※		コンピュータ音楽概論	4	
		アートマネジメント概論Ⅱ	2※		ステージマネージャー演習	1※	
		オペラの歴史と作品	4		ドイツ歌曲①	1※	C
		ジャズの歴史と作品	2※		ハーモニー演習②	2	
		ハーモニー演習①	2	A	パフォーマンス②	1	B
		パフォーマンス①	1	B	フランス歌曲①	1※	C
		ポピュラー音楽概論	4		医学一般	2※	☆
		ミュージカルの歴史と作品	2※		音楽教育メソッド実践Ⅱ	2	
		ミュージックビジネスと社会	2※		音楽教養表現Ⅱ	2	
		ライブビジネスと社会	2※		音楽心理学	2※	
		歌うためのイタリア語	2	C	音楽美学	4	
		演劇の歴史と作品	2※		音楽療法各論Ⅰ	2※	
		音楽基礎演習	2	A	音楽療法各論Ⅱ	2※	
		音楽教育メソッド実践Ⅰ	2		介護概論	2※	☆
		音楽療法概説	2※		楽式論Ⅰ	2※	
		海外研修Ⅱ	3		楽式論Ⅱ	2※	
		海外研修Ⅳ	3		看護学演習	2※	
		海外研修Ⅴ	3		経営学Ⅰ	2※	
		解剖学	4		芸術関係法規	2※	
		合唱①	2		芸術文化と社会Ⅱ	2※	
		合奏Ⅳ①	2	B	鍵盤演奏表現Ⅲ	2	
		器楽の歴史と作品	4		鍵盤演奏表現Ⅳ	2	
		鍵盤演奏表現Ⅱ	2		合唱②	2	
		鍵盤音楽の歴史と作品	4		合奏Ⅱ	2	
		指揮法Ⅰ	2		合奏Ⅳ②	2	B
		児童心理	2※		作曲・編曲法	2	
		障がい児教育概論	2※		社会福祉概論	2※	☆
		西洋音楽史Ⅰ	4		声楽アンサンブル基礎	1※	C
		西洋音楽史Ⅱ	2※		日本古典芸能Ⅲ	1※	
		日本音楽概論Ⅰ	2※		舞踊心理学	4	
		日本音楽概論Ⅱ	2※		民族音楽概論Ⅰ	2※	
		日本古典芸能Ⅰ	1※		民族音楽概論Ⅱ	2※	
		日本古典芸能Ⅱ	1※	D			
		日本伝統音楽演習Ⅰ	1※	E			
		日本伝統音楽演習Ⅱ	1※	E			
		発達心理学	2※				
伴奏法①	2						
舞踊の歴史と作品	4						
簿記・会計入門	4						

【上表中の注意事項】

- A 「ハーモニー演習①」の履修を希望する者は、参考試験結果により「音楽基礎演習」を履修しなければならないことがある。
- B 指定された者のみ履修可。シラバスを参照のこと。
- C 「声楽①」履修者のみ履修可。
- D 「日本古典芸能Ⅰ」の単位を修得した者のみ履修可
- E IとⅡの両方を同学期同時限に履修すること。（\*履修人数制限あり）

◎教養科目については次ページに掲載

音楽科 音楽と社会コース（選択科目）

平成30(2018)年度入学

		1年			2年			
		科目名	単位	注意	科目名	単位	注意	
選択	教養科目	演奏とからだⅠ	2※		キャリアデザイン	1※		
		演奏とからだⅡ	2※		音楽活動研究②	1		
		哲学	2※					
		文学	2※					
		心理学	2※	☆				
		心の健康	2※					
		日本文化史Ⅰ	2※					
		日本文化史Ⅱ	2※					
		西洋文化史Ⅰ	2※					
		西洋文化史Ⅱ	2※					
		美術史Ⅰ	2※					
		美術史Ⅱ	2※					
		日本国憲法	2※					
		生活と経済	2※					
		経済学	2※	☆				
		情報機器演習(基礎)	2※					
		情報機器演習(応用)Ⅰ	2※					
		情報機器演習(応用)Ⅱ	2※					
		体育理論	2※					
		体育実技	1※					
音響学	2※							
ボランティア論	2※							
音楽活動研究①	1							
生涯学習概論Ⅰ	2※	A						
図書館概論	2※	A						
博物館概論	2※							

日本語科目については、  
18ページを見ること。

【上表中の注意事項】

- A 司書課程登録者で、これらの科目が必修の者のみ履修可。また、履修する場合、教養科目としても同時に履修することになり、卒業要件単位にも含む。(※卒業要件単位に含む＝年間履修上限単位数に含む)